

平成18年度(第50回)
岩手県教育研究発表会発表資料

小規模・複式指導

複式学級における自分の考えを広げ深める国語科
「読むこと」の指導に関する研究
学び合いをうながすノートの活用をとおして

平成19年1月10日
長期研修生
所属校 奥州市立大田代小学校
氏名 青沼 徹

目 次

研究目的	1
研究仮説	1
研究の内容と方法	1
1 研究の内容と方法	1
2 授業実践の対象	2
研究結果の分析と考察	2
1 複式学級における自分の考えを広げ深める国語科「読むこと」の指導に関する基本構想	2
(1) 複式学級における自分の考えを広げ深める国語科「読むこと」の指導に関する基本的な考え方	2
(2) 複式学級で学び合いをうながすノートを活用した学習活動を取り入れることの意義	3
(3) 複式学級で学び合いをうながすノートを活用した学習活動を取り入れた学習指導の展開	4
(4) 複式学級における自分の考えを広げ深める国語科「読むこと」の指導に関する基本構想図	5
2 手だてにかかわる実態調査及び調査結果の分析と考察	6
(1) 実態調査の目的と内容	6
(2) 調査結果の分析と考察	6
3 複式学級で学び合いをうながすノートを活用した学習活動を取り入れた学習指導の手だての試案の作成	7
(1) 手だての試案	7
(2) 検証計画	9
4 授業実践及び実践結果の分析と考察	9
(1) 複式学級で学び合いをうながすノートを活用した学習活動を取り入れた学習指導の手だての試案に基づく授業実践の概要	9
(2) 実践結果の分析と考察	14
5 複式学級における自分の考えを広げ深める国語科「読むこと」の指導に関する研究のまとめ	18
(1) 成果	18
(2) 課題	18
研究のまとめと今後の課題	18
1 研究のまとめ	18
2 今後の課題	19
おわりに	
【引用文献】	
【参考文献】	

研究目的

中学年の国語科においては、読み取った内容について自分の考えをまとめ、一人一人の感じ方の違いに気付くことで自らの読みを深めることが求められている。そのためには、友達の考えにふれ、自分の考えの深さ浅さを感じたり、自分とは異なった読み取りと自分の読み取りを比べ、読みの幅を広げたりすることが大切である。

しかし、複式学級における学習指導においては、児童が一人で、あるいは友達同士で学習を進める「間接指導」の場面が余儀なく設定されるため、単に印象を発表し合うだけになったり、意見の違いを肯定的にとらえられなかったりすることが多く、自分の考えを広げ深めていくことは困難である。

このような状況を改善するためには、まず児童自身が、自分の読み取りを基に意見や感想をまとめ、ノートに記入する必要がある。そして、意見や感想をまとめたそのノートを活用し、学び合うことで、自分の考えと友達の考えとの違いを比べ、そのことをきっかけに自分の考えを見つめ直すようにしなければならない。

そこで、この研究は学び合いをうながすノートの活用をとおして、自分の考えを広げ深める国語科「読むこと」の指導について明らかにし、複式学級の学習指導の改善に役立てようとするものである。

研究仮説

複式学級の国語科「読むこと」の学習指導において、学び合いをうながすために、次のような段階でノートを活用し思考過程を交流すれば、自分の考えを広げ深めることができるであろう。

- ・とらえる段階...読み取りの根拠を明らかにして、自分の考えをもつためにノートに記入する。
- ・ふかめる段階...根拠に着目し、互いの考えを比べ、新たな考えを生み出すためにノートを見せ合う。
- ・ふりかえる段階...ノートを基に自分の考えの根拠をふりかえり、学んだ読み方をまとめる。

研究の内容と方法

1 研究の内容と方法

- (1) 複式学級における自分の考えを広げ深める国語科「読むこと」の指導に関する基本構想
(文献法)

複式学級における自分の考えを広げ深める国語科「読むこと」の指導についての基本的な考えをまとめ、構成要素を明らかにするとともに、自分の考えを広げ深める国語科「読むこと」の指導についての基本構想を立案する。

- (2) 手だてにかかわる実態調査及び調査結果の分析と考察(質問紙法)

児童の文章内容を読み取る活動についての実態を調査し、その分析と考察を行い、問題点と課題を把握し、手だての試案の作成に役立てる。

- (3) 複式学級で学び合いをうながすノートを活用した学習活動を取り入れた学習指導の手だての試案の作成(文献法)

基本構想及び実態調査に基づき、複式学級で学び合いをうながすノートを活用した学習活動を取り入れた学習指導の手だての試案を作成する。

(4) 授業実践及び実践結果の分析と考察（授業実践、記録法）

複式学級で学び合いをうながすノートを活用した学習活動を取り入れた学習指導の手だての試案に基づき、単元「ちいちゃんのかげおくり」（第3学年）、「一つの花」（第4学年）の授業実践を行う。また、検証計画に基づいて、分析と考察を行う。

- (5) 複式学級における自分の考えを広げ深める国語科「読むこと」の指導に関する研究のまとめ
実践結果の分析と考察に基づいて、複式学級における自分の考えを広げ深める国語科「読むこと」の指導に関する研究のまとめをする。

2 授業実践の対象

奥州市立大田代小学校

第3学年（男子1名 女子1名）・4学年（男子2名 女子3名） 1学級 計7名

研究結果の分析と考察

1 複式学級における自分の考えを広げ深める国語科「読むこと」の指導に関する基本構想

- (1) 複式学級における自分の考えを広げ深める国語科「読むこと」の指導に関する基本的な考え方

小学校学習指導要領解説（国語）の第3・4学年、「読むこと」領域における内容工には、「読み取った内容について自分の考えをまとめ、一人一人の感じ方について違いのあることに気付くこと」と明記されている。中学年の児童は、自分の考えをある程度もって文章を読むことができる。反面、独りよがりな読みや勝手な理解が目立ち始める時期でもある。自分の考えを広げ深めるためには、まず、自分の思いをはっきりと自覚し、叙述に即して正確に読み取ることが必要である。そのうえで、他人の考えと自分の考えを比べ、一人一人の感じ方の違いに気付くことが大切である。

しかし、複式学級の児童は、生活経験が狭いため、発想や思考の多様性が不足しがちである。このことは全国へき地教育研究連盟で指摘している。また、複式学級の学年別指導では、授業時間の半分を占める間接指導の場面の設定が余儀なくされ、児童が一人で、あるいは友達同士で学習を進めていかなければならない。そのために、叙述に即した正確な読み取りがなされず、根拠のない単なる思いつきだけで発表してしまうことが多い。さらに児童だけの学び合いにおいては、自分の思いや考えを固持し、狭いものの見方や考え方のまま終始してしまうこともある。多様な考えや発想をしたり、他の考えを積極的に受け入れ自分の考えを膨らませたりすることは十分に行われていない状況にある。教師がかかわらない場面であっても、お互いに考えを出し合い、それぞれの考えを比べる中で自分の考えをより確かなものにしていかなければならない。

そこで、本研究が目指す自分の考えを広げ深める児童の姿を「自分の考えをもち、他の考えと比べて共通点や相違点に気付き、それをきっかけに自分の考えを見つめ直す児童」ととらえる。

この自分の考えを広げ深めるとは、「自分の考えをもつ力」「比べる力」「見つめ直す力」の三つの要素で構成されると考える。これらの要素についてまとめたものが【表1】である。

【表1】自分の考えを広げ深めることの構成要素

構成要素	構成要素の意味
自分の考えをもつ力	叙述に即して内容を正確にとらえ、自分なりの感想や意見をもつこと
比べる力	自分の考えと友達の考えを比べ、相違点や共通点に気付くこと
見つめ直す力	友達の考えとの相違点や共通点をきっかけに、自分の考えを見直すこと

自分の考えを広げ深めるためには、まず叙述に即して内容を正確にとらえることが必要である。叙述に即して読むとは、単に与えられた意味内容をそのままに読むことでなく、言葉の気付きを大切に、文脈における言葉の意味、語感などの幅のある理解や読み取りをとおして表現の役割や価値をとらえることである。しかし、ともすると児童は、叙述から離れ、勝手な思いで内容を読み取ってしまうことがある。そのため、自分の感想や意見の根拠をどこにも見い出せず、友達との学び合いにおいては、自分の思いを伝えるだけに終わってしまう。そこで、叙述に即して内容をとらえ、根拠をはっきりさせた上で、自分なりの感想や意見をもたせることが大切である。

次に、自分の考えと友達の考えを比べ、相違点や共通点に気付くことが必要である。「自分はこう考えたが、あなたはどうか」と自分の考えを出し合い、考えを比べ合うという学び合いによって、文章をさらに深く、正確に読むことになる。つまり、友達の言葉、友達の解釈、友達の考えに出会うことにより、自分の読みを深めるために文章に戻ることになるのである。そして、このことは、思いもよらなかった新しいことに気付いたり、新しい考えを創り出したり、自分の考えを広げ深めていくことにつながっていく。

最後に、自分の考えと他人との違いをきっかけにして、自分の考えを見つめ直すことが必要である。気付かなかった考え方にふれたり異なった考えを受け入れたりした後に、もう一度、最初にもった自分の考えを見直すことで、自分の考えを広げ深めることができる。

(2) 複式学級で学び合いをうながすノートを活用した学習活動を取り入れることの意義

複式学級の学習指導においては、人数が少ないために、意見を述べ合ったり、考えを練り合ったりするという学習経験が不足している。そして、音声言語だけに頼った学び合いで、自分の考えを広げ深めさせることは難しい。また、学年別指導においては、間接指導と直接指導が交互に指導過程に位置付くことが多く、教師がかかわる中でじっくり自分の考えを述べ合い、友達との考えの違いや共通点を見つける楽しさを実感させることも難しい。以上のことから、複式指導の充実を図り、間接指導を効果的なものにするためには、学び合いの中で、自分の考えの過程や根拠を友達に説明できるようにする必要がある。そうすることで、児童だけの学び合いでも思考の流れが途切れることなく、連続する学習活動を構築することができる。

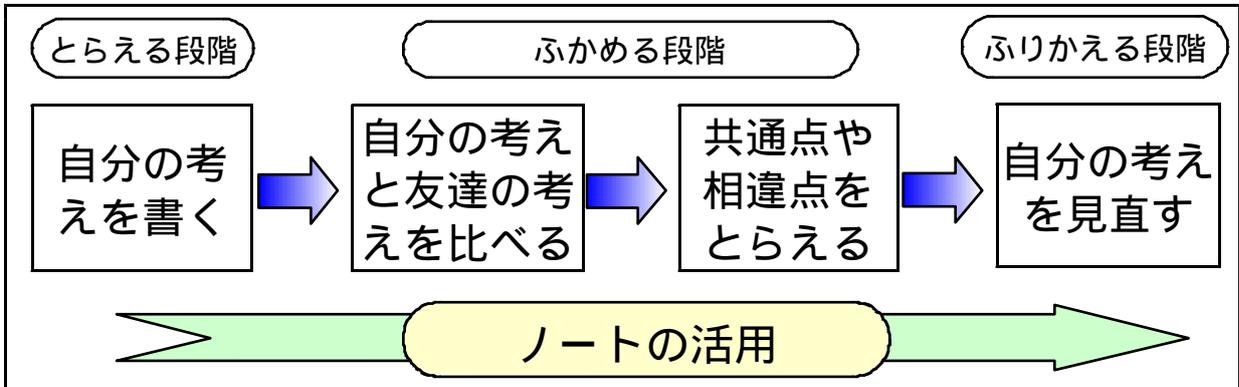
しかし、思考過程は記憶にとどまりにくく、時間の経過とともに消えてなくなってしまう。そのため、最初にもった自分の考えを学び合いの中に生かすことが難しい。また、最初の考えと比べて自分の考えが広がり深まったかどうか思考の変化を自覚することも難しい。後に行われる学び合いで自分の思いや考えを振り返ったり、感想をまとめたりするためには、文字言語によって形としてはっきり残しておく必要がある。このことについて、福島(2000)は、「思考過程を意識化し、様々に繰り広げられる思考過程を明らかな形でとどめておくことは、自分の思いや考えを振り返ったり、自分の感想や意見をまとめたりするのに有効である」としている。

そこで、ノートを活用し、自分の考えを文字言語で表した上で、自分がどのような叙述を基にどのように考えていったかという思考過程が見えるようにしながら学び合わせる。このことで、教師が指導に直接あたることのできない間接指導においても、友達の考えと自分の考えを比べ、共通点や相違点をとらえ、それをきっかけに自分の考えを見直すことが可能となる。また、学びの過程をノートに児童自身が作り上げていくことで、学び方を身に付けさせる。複式学級の学習指導においては、ワークシートを活用することが多い。しかし、いつまでもワークシートの指示に従っているだけでは、主体的な読みの力を育てることができない。自分の思いや感想・意見をノートに自由にまとめさせることで、主体的な読みの力を育てることができる。と考える。

以上のことから、複式学級において、自分の考えを広げ深めるために、学び合いをうながすノートを活用した学習活動を取り入れることは意義があることと考える。

(3) 複式学級で学び合いをうながすノートを活用した学習活動を取り入れた学習指導の展開

複式学級において、自分の考えを広げ深めるために、学び合いをうながすノートを活用した学習活動は、「とらえる段階」「ふかめる段階」「ふりかえる段階」の三段階で、【図1】のように設定する。



【図1】学び合いをうながすノートを活用した学習活動

ア とらえる段階

教師とともに叙述に即して正しく内容を読み取る。その際、キーワードとして主題に関わる言葉や場の様子、登場人物の心情をとらえる言葉を押さえるようにする。その後、読み取りを基に自分の考えをノートに記述する。その際、自分の考えはどんな叙述を根拠としているのかわかるようにする。

イ ふかめる段階

どのような道筋をたどって今の自分の考えに至ったのか、ノートを基に自分の考えを相手に伝える。その際、自分の考えはどんな叙述を根拠にしているのかわかるようにする。自分の考えの根拠となった叙述をノートで示し合い、双方の考えを比べることで、自分の考えと友達の考えとの共通点や相違点をとらえる。そして、共感したことや聞いてみたいことなど、様々な思いや考えを友達に伝える。その後、児童同士の学び合いを基に、教師とともに自分の考えを見直す視点を確かめ、もう一段考えを広げ深めるようにする。

ウ ふりかえる段階

学び合いを基に、最初に記述した自分の考えを見直す。友達の考えを聞いて自分の考えに取り入れたいと思ったことや、学習をとおしてさらに考えてみたことなどを基に、再度、考えを見直し、学んだ読み方をまとめる。終わりに教師とともに本時の学習のまとめを行う。

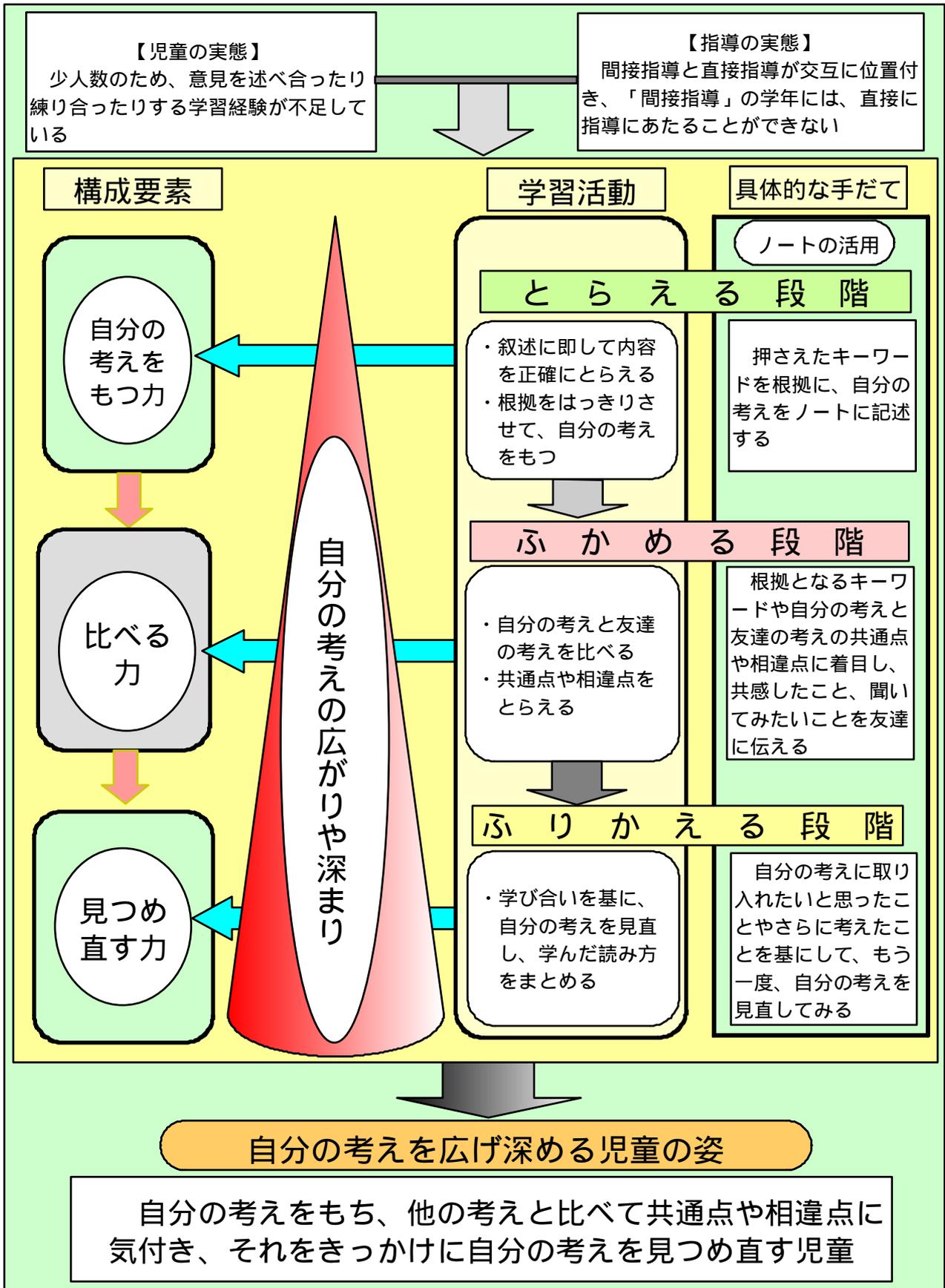
なお、複式学級の指導への対応として、単位時間の指導過程を【図2】のように設定する。

下学年	とらえる段階		ふかめる段階	ふりかえる段階
指導形態	直接	間接	間接	間接
	間接	直接	間接	間接
上学年	ふりかえる段階	とらえる段階		ふかめる段階

【図2】単位時間の指導過程

(4) 複式学級における自分の考えを広げ深める国語科「読むこと」の指導に関する基本構想図

これまでの基本構想を基に、複式学級における自分の考えを広げ深める国語科「読むこと」の指導に関する基本構想図を【図3】のように作成した。



【図3】複式学級における自分の考えを広げ深める国語科「読むこと」の指導に関する基本構想図

2 手だてにかかわる実態調査及び調査結果の分析と考察

(1) 実態調査の目的と内容

手だての試案を作成するに当たって、次のような目的と内容で調査紙を作成し、7月20日に実態調査を行った。

ア 調査の目的

この調査の目的は、調査対象となる3・4年生児童の文章の内容を読み取る活動に関する実態を把握し、手だての試案の作成に役立てることである。

イ 調査の内容

(ア) 文章内容の読み取りに関する内容

(イ) 考えを比べ合うときの意識に関する内容

ウ 調査の対象

奥州市立大田代小学校

第3学年(男子1名 女子1名)・4学年(男子2名 女子3名) 1学級 計7名

エ 実態調査の具体的な観点と設問の内容

実態調査の具体的な観点と設問の内容は、次の【表2】のとおりである。

(調査問題については、【補充資料1】を参照のこと)

【表2】実態調査の具体的な観点と設問の内容

設問番号	調査の観点	設問内容
1	文章内容の読み取りに関する内容 (1) ・文章から主要な登場人物を読み取ることができるか (2) ・主要な登場人物の人物像を読み取ることができるか (3) ・場面の時間的な順序を読み取ることができるか (4) ・場面の様子を正しく読み取ることができるか	・物語の主人公は、だれか ・主人公が信頼されている理由は何か ・順序を示す言葉が正しく並んでいるのは、どれか ・部屋には何があるか ・読んでみての感想は何か
2	・文章を読んで、感想をもつことができるか ・決まった時間内にどの程度の文字数でノートに書くことができるか	
3	考えを比べ合うときの意識に関する内容 ・他人と考えを比べ、相違点があるときの心境について	・友だちと考えを比べ、違いに気付いたとき、不安を感じるか

(2) 調査結果の分析と考察

ア 文章内容の読み取りの実態について

【表3】は設問1の正答数であり、【表3】設問1の正答数

3年N=2

文章内容を読み取る活動の実態について調査した結果を表したものである。物語の主人公を読み取る問題と主人公の人物像を読み取る問題は、

4年N=5(単位:人)

	(1)	(2)	(3)	(4)
3年生	2	2	2	1
4年生	5	5	4	5

どちらの学年も全員の児童が正解していた。場面の時間的な順序を答える問題では、4年生の児童に誤答が1名あった。そして、場面の様子を正しく読み取る問題では、3年生の児童に誤答が1名あった。このことから、文章内容を教師と一緒に読み取る場面では、正しく読み取る

ことができるように、時間的な順序や場面の様子に気を付け読み取りを進める必要があることが分かる。

設問2「文章を読んで、感想をもつことができるか」の結果を分析した結果、文章を読んだ感想を3・4年生どちらの児童も全員もつことができていた。内容を詳しく見ていくと、3年生は、2名とも感想に理由も付けて書くことができていた。4年生の児童は、2名の児童が理由付けがなかった。よって、児童に感想をもたせる際は、考えの根拠が明らかになるように、叙述と関連付けて考えさせるようにしたい。

【表4】は、同じく設問2を受け【表4】1分間に書ける文字数
て、1分間に書ける文字数について 1分間の文字数(単位:字)平均(単位:字)

学年	3年生		4年生				
児童	A児	B児	C児	D児	E児	F児	G児
1分間の文字数	9	42	17	33	24	18	28

表したものである。ノートを活用では、ノートに書く活動があるため、決まった時間内にある程度の文字数をノートに書く力が要求される。

1分間で書ける文字数は、3年生の【表5】考えを比べ合うときの意識に関する内容について
児童間で大きな差が見られる。ノート
3年N=2 4年N=5(人)

	とても心配である	どちらかといえば心配である	どちらかといえば心配ではない	まったく心配ではない
3年生	0	1	0	1
4年生	1	0	4	0

【表5】は、考えを比べ合うときの意識に関する内容について調査した結果である。3年生では、どちらかといえば心配であると答えた児童が1名、4年生ではとても心配であると答えた児童が1名あった。これらの児童は、考えを比べ合う経験が不足していたり、比べ合う方法が十分身に付いていなかったりすることにより、比べ合うことに不安を感じていると考えられる。そこで、活動に入る前に考えを比べ合うための観点や手順を具体的に示し、進め方について十分に理解させるようにしたい。特に、とても心配であると答えた児童が1名いるため、比べ合う場面では教師も学び合いに加わり、友達と考えが違っていても差し支えないことを児童に話すなど、どの児童も不安を感じずに活動できるようにしたい。

ウ 手だての試案作成上の留意点

実態調査から明らかになった手だての試案作成上の留意点は次のとおりである。

- (ア) 時間的な順序や場面の様子を意識して、内容の読み取りを進めること
- (イ) 自分の考えをもつ際には、考えの根拠が明らかになるように叙述と関連付けて考えることができるようにすること
- (ウ) ノートに考え等を記述する際には、時間を十分に確保し、どの児童も自分の考えを書くことができるようにすること
- (エ) 学び合いでは、観点や手順を示して活動の進め方について理解させたり、教師も加わって、他人と違うことのよさを伝えたりし、どの児童も不安なく活動できるようにすること

3 複式学級で学び合いをうながすノートを活用した学習活動を取り入れた学習指導の手だての試案の作成

(1) 手だての試案

基本構想及び実態調査の分析・考察を受け、複式学級で学び合いをうながすノートを活用した

学習活動を取り入れた学習指導の手だての試案を【図4】のように作成した。

段階	指導上の留意点 ○は手だての試案による 配慮事項	下 学 年		上 学 年		段階	直接指導・間接指導 における配慮事項
		ノート活用	学習活動	形態	学習活動		
とらえる 段階	<ul style="list-style-type: none"> どの児童にも内容を正確に読み取れるように、板書を基にキーワードに線を引かせようとする ○順序を表す言葉や場面の様子に着目して読み取らせるようにする 	<ul style="list-style-type: none"> 読み取りでの児童の発言を基にしてキーワードを押さえ、黒板の教材文に教師が赤線を引いていく。 児童も板書を基にノートのキーワードに線を引いていく。 	<ul style="list-style-type: none"> 内容を読み取る 自分の考えをもつ 読み取りをもとに自分の考えを書くことによって自分の考えをはっきり形に表す 	直接 間接	<ul style="list-style-type: none"> 考えを見直す 前時学習をノートの記述から想起する 前時の学習で学んだ読み方をまとめる 本時の学習場面を読んだり、学習課題について考えたり、準備をする 	直接 間接	<ul style="list-style-type: none"> ◆上学年に次の指示をする。 ・ノートによる前時の想起 ・見直しの観点 ・その後の活動 ◆内容を読み取る前に、上学年の児童に考えを発表させる。
	<ul style="list-style-type: none"> ・ノートに書き込む内容を具体的に示す ○自分の考えをノートに書くための時間を十分とる ○自分の考えの根拠を明確にできるように、キーワードと結びつけさせる ・自分の考えをもてない場合、キーワードに着目させる 		間接 直接	<ul style="list-style-type: none"> 内容を読み取る 	間接 直接	<ul style="list-style-type: none"> ◆スムーズに学び合いに入ることができるように、比べる観点や手順について、状況に応じて指導する。 	
ふかめる 段階	<ul style="list-style-type: none"> ○比べる観点や手順を具体的に示す ○友達と考えが違っていることの良さを伝える ・考えの違いが児童だけで見つけられない場合には、教師も学び合いに加わり助言する ・児童の考えに共通点がある場合には、なぜ、同じになったのか。他には、この考えの根拠となる言葉がないのか考えさせる 	<ul style="list-style-type: none"> 比べる観点 ・考えの根拠となっている言葉 ・共通点や相違点 比べる手順 ①考えを聞く ②比べる ③話し合う 	<ul style="list-style-type: none"> 考えを比べる 友達と考えを交流し、共通点や相違点を明らかにする 	間接 間接	<ul style="list-style-type: none"> 自分の考えをもつ 読み取りを基に自分の考えを書くことによって自分の考えをはっきり形に表す 	間接 間接	<ul style="list-style-type: none"> ◆前時の学習が本時の学習につながるように配慮し、発問や指示をする。
	<ul style="list-style-type: none"> ・考えを広げ深めることができるように、考えを見直すための観点を示す ・課題に対する考えを感想もまじえて書かせる。その際、今日の学習を振り返るとともに友達の考えを聞いて自分の考えに取り入れたいと思ったことや学習をとおしてさらに考えたことなど、もう一度学習課題について考えさせる 	<ul style="list-style-type: none"> 見直しの観点 ・自分の考えで足りないところ ・さらに考えてみたいと思ったところ 	<ul style="list-style-type: none"> 考えを見直す 学習を振り返り、学んだ読み方をまとめる 学習のまとめ 	間接 間接	<ul style="list-style-type: none"> 考えを比べる 友達と考えを交流し、共通点や相違点を明らかにする 	間接 間接	<ul style="list-style-type: none"> ◆両学年とも間接指導のときは、教師も学び合いに加わる。 ◆次の時間にノートを見て学習内容を想起できるように、上学年は比べる手順の中に④として、④「メモをする」を加える。 ◆本時の学習でよかったところを教師が紹介し、次時の予告をする。

【図4】複式学級で学び合いをうながすノートを活用した学習活動を取り入れた学習指導の手だての試案

(2) 検証計画

授業実践をとおして手だての試案の有効性を見るため【表6】の検証計画を作成した。【表7】は、学習活動の様子とノートの記述内容から自分の考えを広げ深めることの育成状況をとらえるための基準を示したものである。

【表6】検証計画

検証項目	検証内容	検証方法	処理・解釈の方法
複式学級における自分の考えを広げ深めることの育成状況	自分の考えをもつ力 比べる力 見つめ直す力	・児童の活動の様子 ・ノートの記述	判断するときの基準に基づき児童の活動の様子、ノートの記述内容を分析し考察する。

【表7】学習活動の様子とノートの記述内容から判断するときの基準

検証内容	判断項目	判断するときの基準		
		A	B	C
自分の考えをもつ力	叙述に即して内容を正しくとらえ、その叙述に基に自分の考えを書くことができる	読み取ったキーワードとキーワードをかかわらせ、課題に対する自分の考えを書いている	読み取ったキーワードを基に課題に対する自分の考えを書いている	課題に対する自分の考えを書くことができない
比べる力	自分の考えと友達の考えを比べ、相違点や共通点に気付くことができる	自分の考えと友達の考えの相違点、共通点のどちらも指摘している	自分の考えと友達の考えの相違点、共通点のどちらか一つを指摘している	自分の考えを友達の考えと比べることができない
見つめ直す力	友達の考えとの違いから学習を振り返り、学んだ読み方をまとめることができる	学習をとおして考えたことや友達の考えの中で自分の考えに取り入れたいと思ったことなどを加えて、学習のまとめを書いている。	友達の考えを聞いて学習を振り返り、学習のまとめを書いている	学習を振り返り、最初の自分の考えを見直すことができない。

4 授業実践及び実践結果の分析と考察

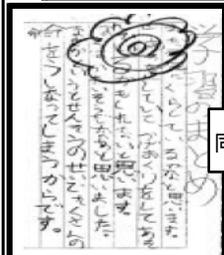
(1) 複式学級で学び合いをうながすノートを活用した学習活動を取り入れた学習指導の手だての試案に基づく授業実践の概要

授業実践は平成18年9月4日～9月21日まで、奥州市立大田代小学校第3学年（男子1名 女子1名）・第4学年（男子2名 女子3名）計7名を対象として行った。単元名は3年「ちいちゃんのかげおくり」、4年「一つの花」である。なお、単元の指導計画は【補充資料2】、学習指導案は【補充資料3】、授業実践の概要は10頁からの【資料1】～【資料2】に示す。

【資料1】学び合いをうながすノートを活用した授業実践の概要『3年生』

教材名	3年 「ちいちゃんのかげおくり」	1の場面(2~3/8時間) 目標 家族そろって「かげおくり」をするちいちゃんの様子を読み取ることができる。
段階	学習活動	教師の働きかけ <input checked="" type="checkbox"/> 児童の様子 <input type="checkbox"/> 児童の考え
とらえる	内容を読み取る	<p>学習課題 ちいちゃんがかげおくりをして遊ぶようになったのは、どうしてだろう。</p> <p>順序を表す言葉や場面の様子に着目して、キーワードを押さえましょう。</p> <p>T: どうして、ちいちゃんたちは、かげおくりをするようになったのですか。 A: お父さんが 戦争に行く前に 教えてくれたからだと思います。 B: 子どもの時、青い空で、たまにやっていたから、天気の良い空を見て思い出したのだと思います。</p> <p>読み取りで押さえたキーワード 教えてくれたお父さん 出征する前の日 青い空 よくできそうな空 子どもの時 よく遊んだ</p>
	自分の考えをもつ	<p>押さえたキーワードと結び付けながら自分の考えを書きましょう。</p> <p>自分の根拠を明確にするためにキーワードと自分の考えを結び付けたノート</p> <p>児童が結び付けたキーワード 教えてくれたお父さん 出征する前の日</p> <p>読み取りで押さえたキーワードは、たくさんあったが、学習課題に対する考えとして児童が押さえたキーワードはその中の一部に限られていた。</p> <p>たぶん父さんが出征する前に教えてくれたからです。</p>

教材名	3年 「ちいちゃんのかげおくり」	5の場面(7/8時間) 目標 1~4の場面と5の場面を比べながら読み、平和な暮らしの様子を読み取ることができる。
段階	学習活動	教師の働きかけ <input checked="" type="checkbox"/> 児童の様子 <input type="checkbox"/> 児童の考え
とらえる	内容を読み取る	<p>学習課題 もしも戦争がなかったら、ちいちゃんはどのようにしているだろう。</p> <p>順序を表す言葉や場面の様子に着目して、キーワードを押さえましょう。</p> <p>T: 町の様子はどう変わりましたか。 A: ちいちゃんが一人でかげおくりをしたところは、小さな公園に変わった。 B: 青い空の下、子どもたちがきらきら笑い声をあげて遊んでいました。 B: ちいちゃんとお兄ちゃんぐらいの子どもたち。</p> <p>読み取りで押さえたキーワード 小さな公園 子どもたち きらきら笑い声 遊んで ちいちゃんとお兄ちゃんぐらい</p>
	自分の考えをもつ	<p>自分の考えをノートに書きましょう。</p> <p>表現は乏しいが、ちいちゃんが幸せにかげおくりをしている姿を想像している児童の気持ちが書かれていた。</p> <p>児童が結び付けたキーワード) 小さな公園 お兄ちゃんやちいちゃんぐらいの子どもたち</p> <p>ノートの記述には、ちいちゃんが元気にかげおくりをしてほしいという気持ちが表れていた。</p> <p>ただ単に教材文を写して学習課題に対する考えとするのではなく、自分の言葉を使って表現した児童の初めの考え ちいちゃんはまだ死なずにかげおくりをして遊んでいる。 ちいちゃんは、まだ生きている。</p>

		ノートを活用した学び合い			
<p>ふかめる</p> <p>考えを比べる</p> <p>友達と考えを交流し共通点や相違点を明らかにする</p>	<p>ノートを見て、考えの同じところや違うところを見つけましょう。</p>  <p>A: どうして「お父さん」に線を引いたの? B: たぶんちいちゃんは、お父さんがもう<u>どこかに行くのを分かって</u>て、お父さんは出征する前に教えてくれたからです。</p> <p>B: お父さんやお母さんは、子どもの時によく遊んだから、それが<u>とても楽しくて</u>、ちいちゃんにも教えてあげたかったのかなあと思います。 A: <u>ぼくもBちゃんと同じで</u>、ちいちゃんとお兄ちゃんに教えてあげたかったんだと思います。</p> <p>向かい合わず隣り合わせてノート比べ、友達との共通点を指摘したことで、スムーズに学び合いができていた。</p>	<p>次の点について考えを比べましょう。</p> <p>発問によって考えを広げ深めている様子</p> <p>友達のノートを指さし、共通点を指摘していた。</p>  <p>T: 戦争でも、ちいちゃんから奪えなかったものはありますか。 B: 幸せ A: <u>幸せ奪われた</u>た。B: ひどい。 B: 天国に行って、奪われてはいない。 B: 最後は、お父さんお母さんお兄さんに会えたでしょう。<u>それが幸せ</u>じゃない。</p> <p>A: <u>あつ、気持ち、奪われてない。</u></p>			
<p>ふりかえる</p> <p>考えを見直す</p> <p>学習を振り返り、学んだ読み方をまとめる</p> <p>学習のまとめ</p>	<p>考えを見直すための指示</p> <ul style="list-style-type: none"> 自分の考えで足りないところ もっと考えてみたいと思ったこと  <p>思考過程の交流を基に学習のまとめを書いていた。</p> <p>学び合いが活かされた学習のまとめ</p> 	<p>初めの考えを整理し、それに友達から聞いたことを加えて、学習のまとめを書きましょう。</p> <p>学び合いを受けて、自分の考えを広げ深めていった学習のまとめ</p>  <p>同内容</p> <p>まだ元気にくらしているかなあと思います。幸せにしているか、かげおくりをして遊んでいるかもしれないと思います。ぼくは、<u>かわいそうだなあ</u>と思いました。なぜかという、<u>戦争のせい</u>で、たくさん命を失ってしまうからです。</p>			
<p>授業の様子</p>	<ul style="list-style-type: none"> 自分の考えをもつ場面では、キーワードを選んで結び付けることにとまどいが見られた児童に対し、教師が支援することで、キーワードから分かる心情や場面の様子をとらえ、自分なりの感想を書くことができた。 読み取る場面が長く、ノートに貼らせた教材文が4ページにわたっていたため、場面全体から課題を把握するのではなく、1ページからのみ、とらえていた。 ノートを基に比べたり、時々教師が学び合いに加わったりしたので、活発に学び合いを行うことができた。 キーワードを選んだ理由を友達に説明し、考えを交流した。さらに自分が選んでいないキーワードの説明をする児童も見られた。 「とらえる」段階で考えをもてなかった児童が見られたが、「ふかめる」段階では友達のノートを参考に書き方を学び、「ふりかえる」段階では学習のまとめを書くことができた。 <ul style="list-style-type: none"> キーワードが課題解決の糸口であることが分かり、ノートをスムーズに書いていた。 直接指導である程度内容を押さえたことで、児童は自分の考えをもつことができ、課題解決につながる学び合いをすることができた。 友達のノートを指さしながら説明したり、友達のノートと自分のノートを見比べて考えたり、教師の指示がなくても子どもたちだけで課題解決をするようになってきた。 二人だけの学び合いだったが「話す」「聞く」「理解する」の流れができていた。そのため能力差はあったものの、対等に学び合うことができた。キーワードの説明が中心になってしまったので、教師が補助発問をして、課題解決につながる学び合いをさせた。 友達や先生との「話す」「聞く」「理解する」というやりとりによって、語彙力が増したため、1時間目と比較し、学習のまとめに書かれている内容が充実していた。また友達に分かってもらえるように丁寧に書くようになってきた。 学習のまとめは、友達との話し合いで気付いたこと、確かになったことが表れた感想も加えられていた。 				

【資料2】学び合いをうながすノートを活用した授業実践の概要『4年生』

教材名	4年「一つの花」	1の場面(2~3/8時間) 目標 戦時下の生活の様子や幼いゆみ子が「一つだけちょうだい。」を覚えた理由を読み取ることができる。
段階	学習活動	教師の働きかけ <input checked="" type="checkbox"/> 児童の様子 <input type="checkbox"/> 児童の考え
ふりかえる	考えを見直す	<p>考えを見直す順序 自分の考え 友達から聞いたこと 感想 書き終わったら、友達と見せ合ひましょう。</p> <p>友達の考えを聞いて、考えを見直した学習のまとめ</p> <p>私は、友達の意見を聞いていたら、ゆみ子はすごくかわいそうだなあと思いました。それにゆみ子はおやつがほしくて「一つだけ、一つだけ。」と言いました。 お母さんはゆみ子が大切だから自分の方から分けてあげました。とても、ゆみ子が大切なんだなあと思いました。</p>
	学習のまとめ	<p>ゆみ子のことが大切で、自分の分をあげていたお母さん。では、お父さんは、ゆみ子のことをどう思っていたのでしょうか。</p> <p>学習課題 どうして、ゆみ子の覚えた最初の言葉は、「一つだけちょうだい。」なのだろう。</p> <p>T: お父さんは、なぜ 深いため息をついたのですか。 C: ゆみ子が将来 どんな子に育つか心配だったから。 C: 一つだけの喜びさ、いや 喜びなんて、一つだってもらえないかもしれないから。 T: ゆみ子は、なぜ かわいそうなのですか。 C: 一つだけちょうだいと言え、なんでももらえると知っているから。 C: ゆみ子は、両手を出すことを知らずに育つかもわからないから。</p> <p>読み取りで押さえたキーワード 深いため息 どんな子に育つ 一つだけの喜び 喜びなんて、一つだってもらえない かわいそうな子 一つだけちょうだい 両手を出すことを知らずに</p>
とらえる	内容を 読み取る	<p>10年後のゆみ子は、どんな子に育ったでしょう。お父さんが願ったとおり一つだけのお花を大事にしていますか。</p> <p>学習課題 ゆみ子はどんな子に育っただろう。</p> <p>T: 十年たったゆみ子は、どんな暮らしをしていますか。 C: とんとんぶきの小さな家は、コスモスの花で いっぱいに包まれています。 C: 自分にお父さんがあったことも、あるいは知らないのかもしれませんが。 C: お父さんの 顔を覚えていません。 C: 小さなお母さんになって、お昼を作る日です。 C: ミシンの音がたえず速くなったりおそくなったりしている。 C: お肉やお魚を食べている。</p> <p>読み取りで押さえたキーワード 十年の年月 とんとんぶきの小さな家 コスモスの花 いっぱい あるいは知らない 顔を覚えて 小さなお母さん お昼を作る日 ミシンの音 お肉やお魚</p>

5の場面(7/8時間) 目標 お母さんを助け、平和に暮らすゆみ子の様子を読み取ることができる。
教師の働きかけ <input checked="" type="checkbox"/> 児童の様子 <input type="checkbox"/> 児童の考え
<p>前の時間に学習したことをノートを見て思い出し、学習のまとめを書きましょう。 学習のまとめを見せ合ったり、次の課題を考えたりしましょう。</p> <p>学び合いを受けて、自分の考えを広げ深めていった学習のまとめ</p> <p>ゆみ子が「一つだけ、一つだけ。」と泣き出してしまったから、お父さんはあやそうと思ってやったんだと思う。 一つだけの花だから、大切にしてもらいたくて、花をやったんだと思う。命を大切にもらいたいから。 ゆみ子がおにぎりを全部食べてしまって、お父さんは、ゆみ子に何もやれなかったから、ゴミ捨て場のようなところに咲いている花をやったんだと思う。</p>
<p>10年後のゆみ子は、どんな子に育ったでしょう。お父さんが願ったとおり一つだけのお花を大事にしていますか。</p> <p>学習課題 ゆみ子はどんな子に育っただろう。</p> <p>T: 十年たったゆみ子は、どんな暮らしをしていますか。 C: とんとんぶきの小さな家は、コスモスの花で いっぱいに包まれています。 C: 自分にお父さんがあったことも、あるいは知らないのかもしれませんが。 C: お父さんの 顔を覚えていません。 C: 小さなお母さんになって、お昼を作る日です。 C: ミシンの音がたえず速くなったりおそくなったりしている。 C: お肉やお魚を食べている。</p> <p>読み取りで押さえたキーワード 十年の年月 とんとんぶきの小さな家 コスモスの花 いっぱい あるいは知らない 顔を覚えて 小さなお母さん お昼を作る日 ミシンの音 お肉やお魚</p>

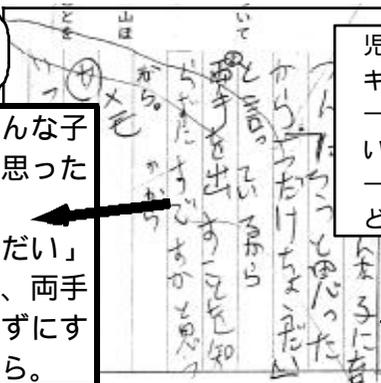
自分の考えをもつ

読み取りをもとに自分の考えを書くことで、自分の考えをはっきり形に表す

考えをノートに書きましょう。

お父さんは、どんな子に育つんだろうと思ったから。「一つだけちょうだい」と言っているから、両手を出すことを知らずにすごすかと思ったから。

児童が結び付けたキーワード
一つだけちょうだい
一つだけの喜び
どんな子に育つ

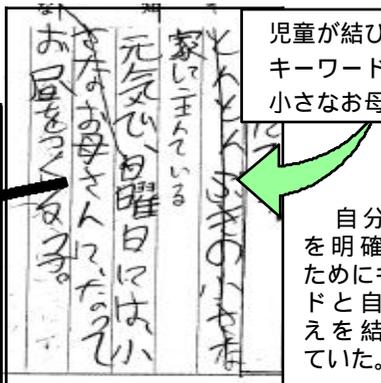


考えをノートに書きましょう。

とんとんぶきの小さな家に住んでいる。元気で、日曜日には、小さなお母さんになってお昼をつくる子。

児童が結び付けたキーワード
小さなお母さん

自分の根拠を明確にするためにキーワードと自分の考えを結び付けていた。



考えを比べる

友達と考えを交流し、共通点や相違点を明らかにする

ふかめる

ノートを見て、考えの同じところや違うところを見つけましょう。

考えを比べるための発問

T: Aさんは、「深いため息」をどうして選んだの?
C: ゆみ子が一生、両手を出すことを知らずに過ごすかもしれないと思っていたから、それで、不安になってきて、お父さんが深いため息をついた。
C: 「深いため息について」というのは、不安というもがあったんだなあ。

C: Aさんと似ていて、「一つだけの喜びさ」とつながりました。

ノートを活用した学び合い



次の点について考えを比べましょう。

キーワードを基にした学び合いの様子

C: どうして、そのキーワードを選んだの。
C: 「高い声」は元気な声だし、「スキップ」は元気だからできることなので、これにしました。

友達のノートのをぞき込みキーワードを確認していた。

T: お父さんが大事にしてほしいことは何ですか。
C: 枯らさないできれいに元気に育てること。
C: 家を全部、花にすること。
C: お父さんの願ってさ、たぶん「元気で丈夫な子」っていうことじゃないかな。



授業の様子

- 自分の考えをもつことは初めての活動だったにもかかわらず、どの児童もキーワードを根拠に自分の考えをもとうとしていた。
- 自分の考えとキーワードを結び付ける場面では、とまどう児童はあまりなく、進んで活動することができていた。ただ、キーワードと自分の考えを結び付けるという学習の流れを十分に理解していなかったため、キーワードでなく、文章全体と結び付けている児童も見られた。
- キーワードを基に考えを交流したことで、課題解決につながる学び合いをすることができた。
- 学び合いは両学年とも間接指導だったので、教師も余裕をもって学び合いに加わることができた。
- 教師も加わった学び合いでは、児童の発言を受けて補助発問をしたので、ふだんは二言三言で終わってしまう児童の学び合いがなかなか途切れなかった。
- 3人よりも2人のグループの方が、ノートを見せ合ったり、考えを交流したり、活動が気兼ねなく行われていた。

- ノートに書いた自分の考えや学び合いでのメモ、そして教師のコメントを見ながら、前時の学習を振り返っていた。
- 学習の流れやノート活用の流れを理解してきたので、学習のまとめを書いた児童がノートを互いに見せ合ったり、自分の考えをもった児童が学び合いを始めたり、教師の指示がなくても主体的に学習を進めるようになってきた。
- キーワードを根拠に自分の考えを書いている。感想を加えて書く児童も増えてきた。
- 話すだけでなく、友達の話じっくり聞いたり、メモをとったり、聞くことにおいても積極的な姿が見られた。
- 友達と学び合ったこと、友達のノートから学んだことが学習のまとめに生かされていた。最初の考えでは見られなかった考えや感想が書かれていた。
- 学び合いのグループが三つと非常に少ないので、どのグループにも教師が積極的にかかわることができた。

(2) 実践結果の分析と考察

ア 「自分の考えをもつ力」の育成状況について

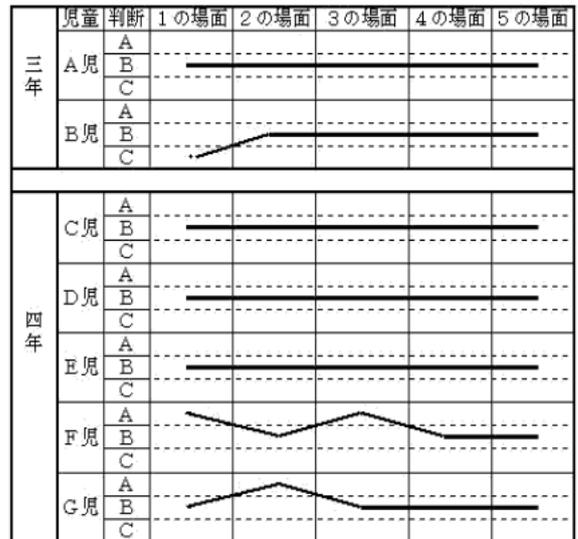
【図5】は、9頁の【表7】の検証計画に基づいて「自分の考えをもつ力」の変容状況をまとめたものである。

1の場面では3年生にC評価の児童が1名いたものの、2～5の場面へと学習が進むにつれて、全体がB評価以上となった。

【資料3】は、1の場面でC評価であった3年B児のノートの記述内容である。B児は、1の場面では、ノートに自分の考えを書くことができていない。しかし、自分の考えをもつための根拠となるキーワードを、読み取りを基にして複数選ぶことはできている。2の場面では、キーワードを選ぶだけでなく、ノートに自分の考えを書くことができています。このことから、1の場面でノートに自分の考えを書くことができなかったのは、学習の流れ、ノートの活用の仕方を理解していなかったためと考える。

次頁の【資料4】は、3の場面における3年A児の「自分の考えをもつ力」についての詳細である。読み取りで押さえたキーワードは「登場人物の行動を表す言葉」「場の様子を表す言葉」「登場人物の心情を直接表現する言葉」に分類される。それらのキーワードの中から、A児は二つのキーワードを自分の考えと結び付けている。そして、キーワード「きっと帰ってくる」を基に自分の考えとして、「ここにきてくれるんだよね。」と書いている。9頁の判断するための基準を基にして評価したとき、A児の評価はBである。A児の考えの中に読み取りで押さえたキーワードは、「きっと帰ってくる」の一つしかないが、そのキーワードを根拠にして、自分の考えをもったと判断できるからである。A児が結び付けたキーワードは、「登場人物の行動を表す言葉」が中心である。これは、登場人物の心情を探る上では、行動に着目すればよいことにA児が気付いたことを意味する。

このように正しく内容を読み取り、キーワードを根拠に考えたことで、自分の考えをもつこ



【図5】「自分の考えをもつ力」の変容状況

【資料3】3年B児のノートの記述内容

1の場面のノート

読み取りを基に複数選んだキーワード

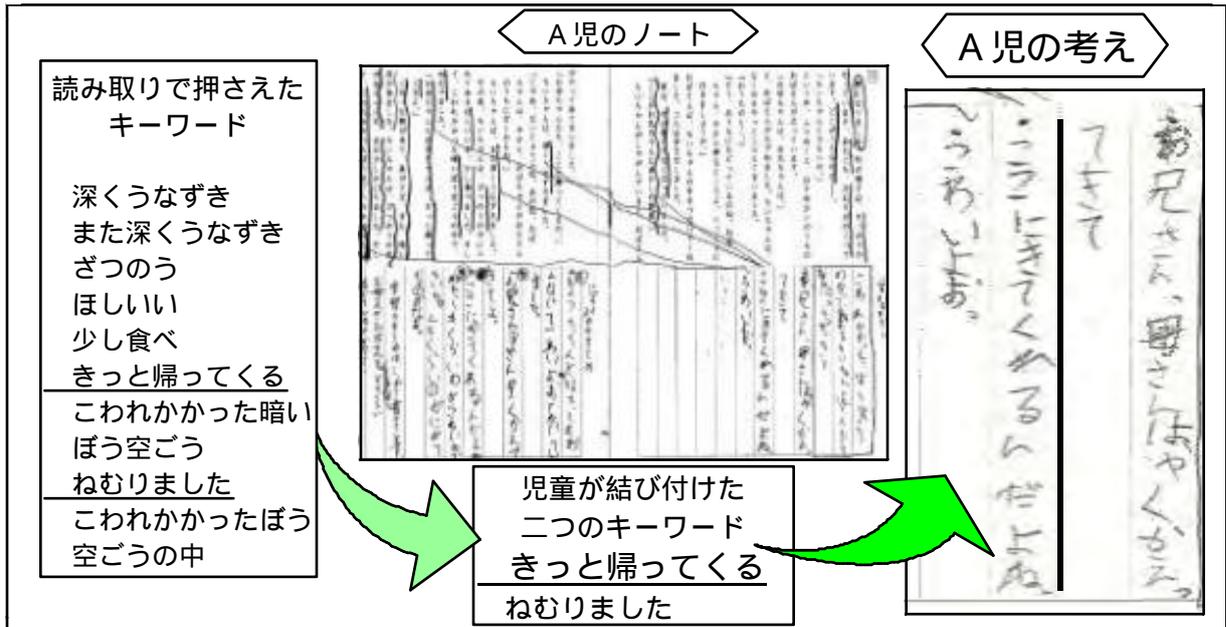
自分の考えを書くことができなかった。

2の場面のノート

キーワードを基にした自分の考え

自分の考え
お母ちゃんは、きっとこのどこかにいるよ。
お母ちゃんまって。
さ、早く走って。

【資料4】 3の場面における3年A児の「自分の考えをもつ力」についての詳細



とができたと考える。他の児童のノート进行分析したところ同じように自分の考えはどんな言葉、どんな文を根拠にしたのか明確になっていた。自分の考えの中に生かされているキーワードが一つしかない児童が多いためB評価となった。しかしながら、実践を終え、研究担当者が設定した判断するための基準が妥当であったか振り返ってみると、中学年の発達段階を考慮した場合、ハードルが高く妥当とは言い難かった。中学年の「読むこと」の目標は、「目的に応じ、内容の中心をとらえて読むこと」であるから、一つのキーワードにこだわり、自分の考えをもつことができれば、その目標は達成されたととらえることができる。児童全員、一つのキーワードを根拠に、自分の考えをもつことができていたことから、「自分の考えをもつ力」は概ね育成されたと考える。

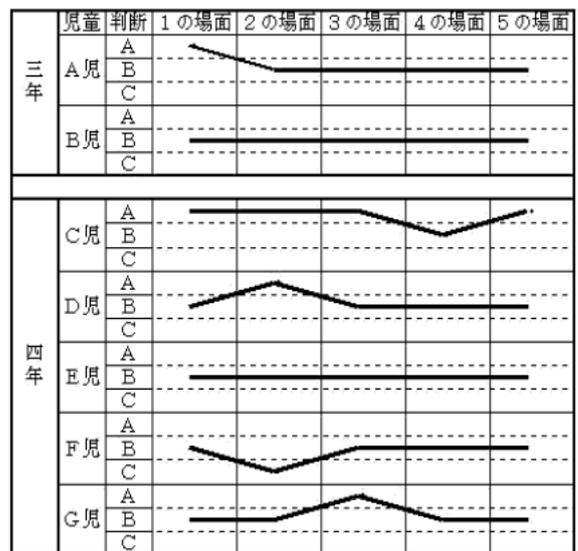
イ 「比べる力」の育成状況について

【図6】は、9頁の【表7】の検証計画に基づいて「比べる力」の変容状況をまとめたものである。2の場面でC評価の児童が1名いるものの、全体としてはB評価以上である。

次頁【資料5】は、第4学年の3の場面で、ノートを活用し、考えの共通点や相違点を見つける学び合いの様子である。

C児とD児は共に のように、互いに「どうして～」「なぜ～」と友達のキーワードや考えについて、質問している。そして、友達の考えを聞くことにより、C児は でD児の考えとの共通点(次頁の資料5)を見つけている。これらの様子から児童は学び合いによって共通点を見つけようとしていることが分かる。

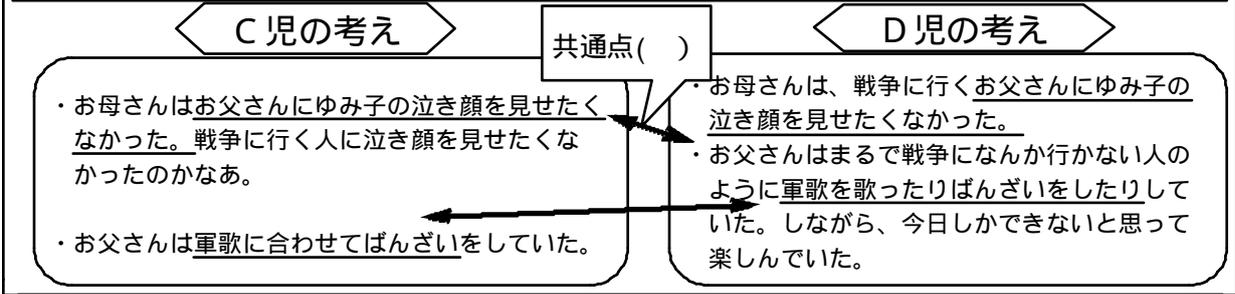
このことは、T の発問に対して、C児、D児とも と答えていることから確認できる。T は、児童が考えを比べるための発問である。この発問に対するD児の発言を受けて、C児は の発言をしている。これは、自分の考えと異なる考えがあることに初めて気がついた瞬間の発言であることが分かる。



【図6】「比べる力」の変容状況

【資料5】第4学年の3の場面で、ノートを活用し、考えの共通点や相違点を見つける学び合いの様子

D児 どうして、お父さんは、軍歌に合わせて歌を歌っていたと書いたのですか。
 C児 なんか戦争に行く人ではないように思えたからです。
 C児 D君とぼくと、だいたい同じだからなあ。
 C児 D君はなぜ、「ゆみ子の泣き顔を見せたくなかったのでしょうか」に線を引いたんですか。
 D児 お母さんは戦争に行くお父さんにゆみ子の泣き顔を見せて、お父さんが暗くならないようにと思ったからです。
 T 二人の考えは、同じところや違うところがありましたか。
 C児 考えは、大体同じ。
 D児 違うところはなかった。キーワードも同じだった。
 T どうしてお父さんは、歌を歌ったり小さくばんざいしたりしたのですか。
 D児 ゆみ子を喜ばせるため。
 C児 ああ、そういう考え方もあるんだな。



このように、自分の考えと友達の考えを比べ共通点や相違点に着目させたことで、自分の考えの良さや自分の考えに足りないところに気付き、さらに考えてみたいところを見つけることができていた。また、友達の考えをより深く理解しようとする姿勢が見られるようになったと考える。他の児童の活動の様子を分析したところ同じように自分の考えと友達の考えを比べ、共通点や相違点に着目していた。しかし、共通点、相違点のどちらか一つを指摘している児童が多いためB評価の児童が多くなった。これは、「自分の考えをもつ力」の育成状況の考察でも述べたが、児童全員が一つのキーワードにこだわり自分の考えを書いたことにより、相違点、共通点のどちらか一つしか指摘できなかったためと考える。判断するための基準について、検討の余地があることを感じた。ただし、資料5の学び合いの様子からとらえられるように、共通点または相違点という一つの視点で比べることができているか分析すれば、B評価の児童は多いものの、深い読み近づいており、「比べる力」は概ね育成されたと考える。

ウ 「見つめ直す力」の育成状況について

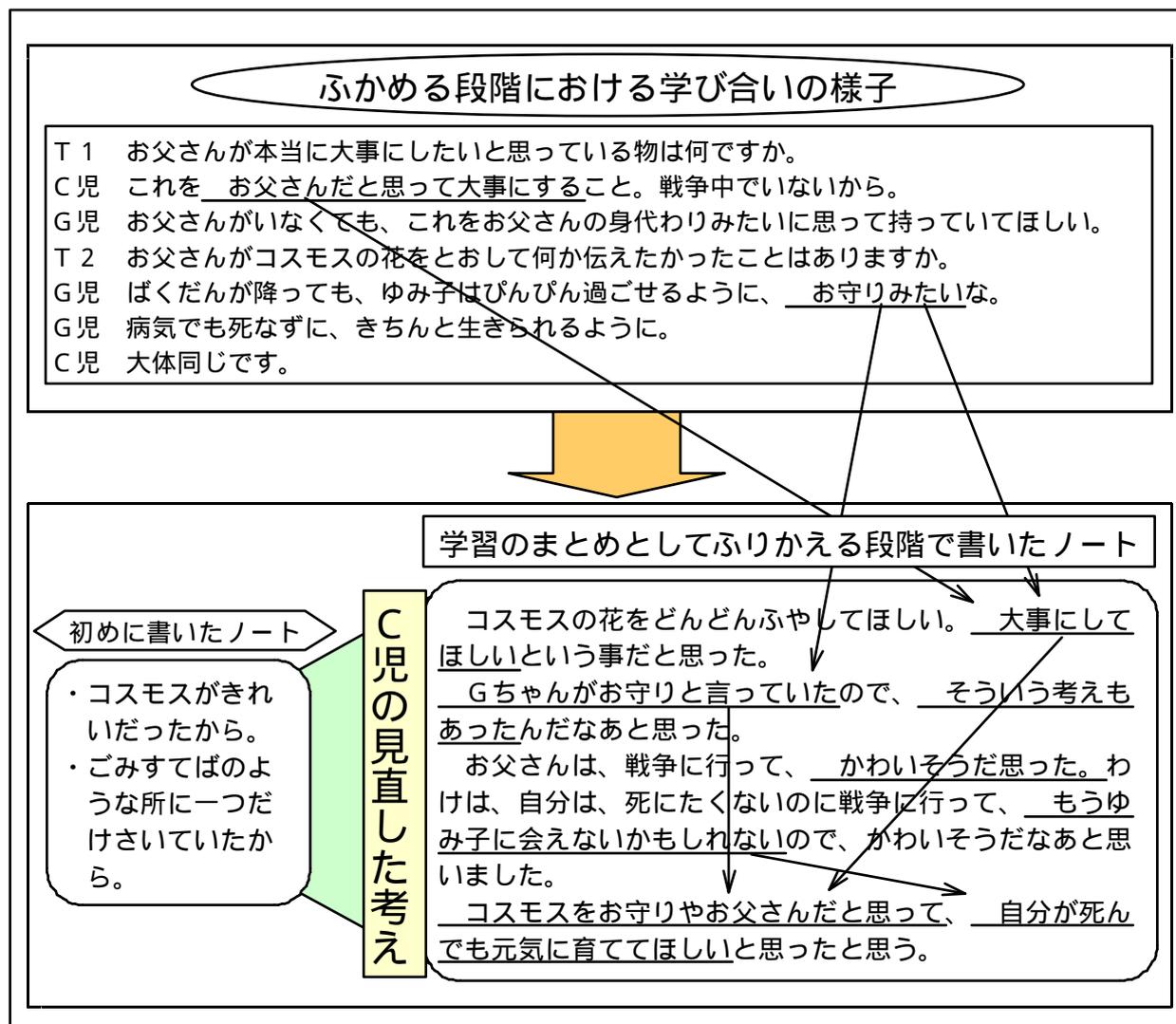
【図7】は9頁の【表7】の検証計画に基づいて「見つめ直す力」の変容状況をまとめたものである。

1・2の場面では、B評価が多く見られるが、3の場面以降、A評価の児童が次第に多くなり、5の場面では、全児童がA評価になっている。これらのことから、「見つめ直す力」は、学習が進むにつれて、徐々に高まっていったことが分かる。

次頁、【資料6】は第4学年で、相違点をきっかけに自分の考えを見直すことができた場面である。

		児童	判断	1の場面	2の場面	3の場面	4の場面	5の場面
三年	A児	A						
		B						
		C						
	B児	A						
		B						
		C						
四年	C児	A						
		B						
		C						
	D児	A						
		B						
		C						
	E児	A						
		B						
		C						
	F児	A						
		B						
		C						
	G児	A						
		B						
		C						

【図7】「見つめ直す力」の変容状況



C児は学習のまとめに書いたノートの中で、「大事にしてほしい」と書いている。これは、自分の発言「お父さんだと思って大事にする」を基にして書いている。これはC児が自分の考えと友達の考えの違いをきっかけに自分の考えに足りないところに気づき、記述している。「Gちゃんがお守りと言っていた」、「そういう考えもあったんだなあ」とC児が発言していることから、G児の発言「お守りみたい」を聞いて共感し、自分の考えに加えたことが分かる。また、「かわいそうだった」「もうゆみ子に会えないかもしれない」と、感想も加えて記述している。また、同様に、「コスモスをお守りやお父さんだと思って」、「自分が死んでも元気に育ててほしい」と、学習をとおしてさらに考えたことなども加えて、課題に対する自分の考えをまとめて記述している。9頁の判断するための基準を基にして評価したとき、C児の評価はAである。友達の考えを聞いて、友達の考えと自分の考えの違いに気づき、それをきっかけに自分の考えに足りないところを見つけ出し、学習をとおしてさらに考えたことを加えて、自分の考えを見直したと判断したからである。

このように、思考過程の交流で気付いた共通点や相違点をきっかけにして、自分の考えに足りないところやさらに考えたことなどを加えて自分の考えを見直し、学んだ読み方をまとめることで、どの児童も自分の考えをよりいっそう広げ深めることができたと考える。

以上のことから「見つめ直す力」は概ね育成されたと考える。

5 複式学級における自分の考えを広げ深める国語科「読むこと」の指導に関する研究のまとめ
これまで、手だての試案に基づく授業実践を行い、実践結果の分析と考察をとおして、その有効性について検討してきた。その結果から、成果と課題についてまとめる。

(1) 成果

ア 読み取りの根拠を明らかにして、学習課題に対する自分の考えをノートに記入したことにより、叙述に即して内容を正確にとらえ、自分なりの感想や意見をもつことができた。

イ どのような道筋をたどって自分の考えに至ったのか、ノートを基に、お互いに伝え合ったことにより、自分の考えと友達のととの共通点や相違点に気付き、自分の考えに足りないところやさらに考えてみたいところを見いだすことができた。

ウ 友達の考えを聞いて自分の考えに取り入れたいと思ったことや、学習をとおしてさらに考えてみたことを基に、学んだ読み方をまとめることにより、自分の考えを見直すことができた。

(2) 課題

学び合いをうながすノートの活用においては、自分の考えをノートに記述した上で、学び合うことが望ましい。児童が、自分の考えをしっかりともち、ノートに記述できるようにするためには、直接指導の時間を長く取り、児童の活動を支援することができるように、直接指導、間接指導の時間の設定の仕方を検討する必要がある。

以上のことから、課題はあるものの、複式学級で学び合いをうながすノートを活用した学習活動を取り入れた学習指導の手だての試案は有効であり、複式学級における自分の考えを広げ深めるために効果があったものと考えられる。

研究のまとめと今後の課題

1 研究のまとめ

この研究は、学び合いをうながすノートを活用した学習活動を取り入れた学習指導をとおして、複式学級における自分の考えを広げ深める国語科「読むこと」の指導について明らかにし、複式学級の学習指導の改善に役立てようとするものであった。その結果、仮説の妥当性を確かめることができた。なお、成果として得られたことは、次のとおりである。

(1) 複式学級における自分の考えを広げ深める国語科「読むこと」の指導に関する基本構想

複式学級における自分の考えを広げ深める国語科「読むこと」の指導に関する基本的な考え方や複式学級で学び合いをうながすノートを活用した学習活動を取り入れることの意義と学習展開について明らかにし、基本構想としてまとめることができた。

(2) 基本構想に基づく実態調査及び調査結果の分析

手だての試案を作成するに当たって、児童の国語の学習における文章の内容を読み取る活動に関する実態を把握するために調査を行った。調査によって明らかになったことから手だての試案作成上の留意点をまとめることができた。

(3) 学び合いをうながすノートを活用した学習活動についての手だての試案の作成

基本構想及び実態調査から明らかになった手だての試案作成上の留意点を基にして、複式学級で学び合いをうながすノートを活用した学習活動を取り入れた学習指導の手だての試案を作成することができた。

(4) 授業実践及び実践結果の分析と考察

手だての試案に基づいた授業実践により、複式学級で学び合いをうながすノートを活用した

学習活動を取り入れた学習指導の手だての試案が、複式学級における自分の考えを広げ深める国語科「読むこと」の指導に有効であることを確かめることができた。

- (5) 複式学級における自分の考えを広げ深める国語科「読むこと」の指導に関する研究のまとめ
実践結果の分析と考察に基づき、複式学級における自分の考えを広げ深める国語科「読むこと」の指導について、成果と課題を明らかにすることができた。

2 今後の課題

本研究を今後より生かすための課題として、次のようなことが考えられる。

単位時間の指導過程にしたがって授業を進めた場合、ふりかえる段階が次時になる学年があることから、複数単元にわたって、「読むこと」の指導形態をどのようにするか構想すること。

おわりに

長期研修の機会を与えてくださいました関係諸機関の各位並びに所属校の諸先生方と児童のみなさんに心から感謝を申し上げ、結びのことばといたします。

【引用文献】

福島慶子(2000),『自分の思いや考えを適切に表現する児童の育成』, p60,群馬県総合教育センター

【参考文献】

有田和正(1996),『新・ノート指導の技術』,明治図書

入部明子(2000),『「見えない思考」から「見せる思考」へ』『国語教育』12月号,明治図書

菅原文彦(2000),『一人一人の考えを深める国語科の学習指導の在り方に関する研究』,岩手県総合教育センター

須田 実(2005),『読む力・考える力を育てるノート指導 小学3・4年』,明治図書

全国国語授業研究会(2005),『小学校国語 読解力を高める - 授業者からの提案 - 』,東洋館出版

全国へき地教育研究連盟(1998),『21世紀を拓く教育シリーズ 学習指導方法の工夫・改善』

濱平清志他(2005),『学びの跡を確かなものにするノートの活用とその評価の工夫』,熊本県総合教育センター

補充資料

目 次

- 【補充資料1】手だてにかかわる実態調査紙……………資 1
- 【補充資料2】単元「ちいちゃんのかげおくり」「一つの花」の指導計画……………資 2
- 【補充資料3】第3・4学年複式国語科学習指導略案……………資 3

国語の学習についてのアンケート

()年()番 名前

このアンケートは、国語の学習について、みなさんが、ふだんどのよう
に思っているかを知り、これからの学習に役立てるために行うもので
す。せしせきにはかんけいありませんので、ふだんの学習を思い出しな
がら答えてください。

- 1 これから、あるお話を読んでいきます。読み終わったら、次の問題に
答えてください。

(一) このお話の主人公は、だれですか。



(二) あなぐまは、いつもみんなからたよりにわれています。
それは、どうしてですか。

(三) このお話には、順序を表す言葉がいくつか使われています。
次のア～エの中で正しい順序にならんでいるものを
一つ選んで○をつけましょう。

- ア あるあたたかい春の日に―春が来て―次の日の朝―ある日のこと
- イ 春が来て―ある日のこと―次の日の朝―あるあたたかい春の日に
- ウ ある日のこと―次の日の朝―春が来て―あるあたたかい春の日に
- エ ある日のこと―次の日の朝―あるあたたかい春の日に―春が来て

(四) あなぐまの地下の部屋には何がありますか。
見えるものをすべて書き出しましょう。

二 お話を読んでの感想を書きましょう。

Handwriting practice area with 12 horizontal dashed lines for writing.

三 あなたは、友だちの考えと自分の考えをくらべて、おかしがある心配ですか。
ア～エの中から一つ選んで○をつけてください。

- ア とても心配である
- イ どちらかといえば心配である
- ウ どちらかといえば心配ではない
- エ まったく心配ではない



【補充資料2】単元「ちいちゃんのかげおくり」「一つの花」の指導計画（8時間扱い）

		学 習 活 動	
時	学習指導目標	3年「ちいちゃんのかげおくり」	4年「一つの花」
1	物語の概要をとらえ学習の見通しをもつことができる。	1 全文を読み、感想をもつ。 ・初発の感想を書き、発表し合う。 ・漢字の読み、語句の確認をする。 お話を読んで、感想を書こう。	1 全文を読み、感想をもつ。 ・初発の感想を書き、発表し合う。 ・漢字の読み、語句の確認をする。 お話を読んで、感想を書こう。
2 ・ 3	叙述に即して、情景や登場人物の心情を想像しながら読むことができる。	2 場面ごとに情景や人物の気持ちを読み取る (1) 家族そろって「かげおくり」をするちいちゃんの気持ちを読み取る。 ちいちゃんがかげおくりをして遊ぶようになったのは、どうしてだろう。	2 場面ごとに情景や人物の気持ちを読み取る (1) 戦時下の生活の様子や幼いゆみ子が「一つだけちょうだい。」を覚えた理由を読み取る。 どうして、ゆみ子の覚えた最初の言葉は、「一つだけちょうだい。」なのだろう。
4		(2) 空襲の様子やひとりぼっちになってしまったちいちゃんの気持ちを読み取る。 たくさんの人たちの中でねむるちいちゃんはどんなことを思っただろう。	(2) ゆみ子の将来を心配する両親の気持ちを読み取る。 どうしてお父さんは、ゆみ子をめちゃくちゃに高い高いしたのだろう。
5		(3) はぐれた家族に会えると信じて待っているちいちゃんの気持ちを読み取る。 こわれかかったぼう空ごうの中で、一人でねむるちいちゃんはどんなことを思っただろう。	(3) 父親が出征する日の家族の様子や両親の気持ちを読み取る。 お父さんが戦争に行く日、お母さんとお父さんはそれぞれどんなことを思っただろう。
6		(4) たった一人でかげおくりをして家族に会えたちいちゃんの気持ちを読み取る。 どうして、ちいちゃんは、きらきらわらいながら花畑の中を走り出したのだろう。	(4) 一輪のコスモスの花にこめられた父親の願いを読み取る。 どうしてお父さんは、一輪のコスモスの花をあげたのだろう。
7		(5) 1～4の場面と5の場面を比べながら読み、平和な暮らしの様子を読み取る。 もしも戦争がなかったら、ちいちゃんはどのようにしているだろう。	(5) お母さんを助け、平和に暮らすゆみ子の様子を読み取る。 ゆみ子はどんな子に育っただろう。
8	学習を振り返り自分の学びを文章で書くことができる。	(6) 学習のまとめをする。 ・学習を振り返り、この物語を読んで考えたことや学習したことなどを盛り込み、主人公宛に手紙を書く。 ちいちゃんへ手紙を書こう。	(6) 学習のまとめをする。 ・学習を振り返り、この物語を読んで考えたことや学習したことなどを盛り込み、主人公宛に手紙を書く。 ゆみ子へ手紙を書こう。

【補充資料3】第3・4学年複式国語科学習指導展開案

(1の場面 / 2・3時)

(1)3年の目標

・家族そろって「かけおくり」をするちいちゃんの気持ちを読み取ることができる。

(1)4年の目標

・戦時下の生活の様子や幼いゆみ子が「一つだけちょうだい。」を覚えた理由を読み取ることができる。

3年		4年					
段階	指導上の留意点 手だての試案による配慮事項	学習活動(主な発問・指示)	形態	学習活動(主な発問・指示)	指導上の留意点 手だての試案による配慮事項	段階	
とらえる	<ul style="list-style-type: none"> 学習の見通しを持たせて、本時の学習に意欲的に取り組めるようにする。 課題について考えながら読むように指示する。 板書を基にキーワードに赤線を引かせ、どの児童も内容が正確に読み取れるようにする。 板書には線を引くだけでなく、必要に応じて心情も書き込んでいく 順序を表す言葉や場面の様子に着目して読み取らせるようにする。 	<ul style="list-style-type: none"> 学習課題を書く。 教師と一緒に、キーワードに赤線を引いていく。 <p>読み取りの観点とキーワード</p> <ul style="list-style-type: none"> 出征前日の家族とかけおくりの様子 「かけおくり」「お父さん」「出征する前日」 「先祖のはかまいり」「青い空」「つばやき」 「かけおくりのよくてきそうな空」「こどものとき」 「四人は手をつなぎ」「白い四つのかけぼうし」「すごうい」「記ねん写真」 お父さんの出征とその後の家族の様子 「白いたすき」「日の丸のはた」「列車に」 「体の弱いお父さん」「ぼつん」「いろいろなかげおくり」 「いくさがはげしく」「しょういだん」「ばくだん」 「とても楽しいところ」「とてもこわい所」 	直接	<ul style="list-style-type: none"> 本時の準備や新出漢字・語句の練習をする。 次の作業を行っておく。 学習課題をノートに書く。 本時の学習場面を黙読する。 漢字・語句の練習をする。 	<ul style="list-style-type: none"> 学習課題を書く。 次の直接指導に速やかに入れるように準備させておく。 個人学習できるように指示しておく。 	ふりかえる	
	<ul style="list-style-type: none"> 間接指導に入る前に児童だけで学習を進められるように考えをもつための手順を示す。 自分の考えの根拠を明確にできるようにキーワードと結び付けさせるようにする。 	<ul style="list-style-type: none"> 手順にしたがって、自分の考えをノートに書く。 <p>考えをもつ手順</p> <p>赤線のほかにも大切だと思った言葉には波線を引く。学習課題に対する考えをノートに書く。</p> <p>ノート上段の教材文から考えの理由になるキーワードを見つけ下段の考えと線をつなぐ。</p>	<ul style="list-style-type: none"> 1. 学習課題を確認する ちいちゃんがかげおくりをして遊ぶようになったのはどうしてだろう。 2. 学習場面を音読する 一の場面を読む。 3. 場面の内容を読み取る 教師といっしょに、内容を読み取る。 大事な言葉に線をひこう。 	間接	<ul style="list-style-type: none"> 2. 学習課題を確認する どうして、ゆみ子の覚えた最初の言葉は、「一つだけちょうだい。」なのだろう。 3. 学習場面を音読する 一の場面を読む。 4. 場面の内容を読み取る 教師といっしょに、内容を読み取る。 大事な言葉に線をひこう。 <p>読み取りの観点とキーワード</p> <ul style="list-style-type: none"> 戦争中の生活の様子 「戦争のはげしかったころ」「そんな物」 「どこへ行ってもありません」「配給」「おいも」「豆」 「かぼちゃ」「毎日」「てきの飛行機」「ばくだん」 「次々に焼かれて」「はい」 ゆみ子が最初の言葉を覚えた理由 「いつもおなかをすかして」「いくらでもほしがる」 「一つだけよ」「自分の分から一つ」「一つだけ」 「お母さんの口ぐせ」「知らず知らずのうちに」 「口ぐせを覚えて」 		<ul style="list-style-type: none"> 学習の見通しを持たせて、本時の学習に意欲的に取り組めるようにする。 課題について考えながら読むように指示する。 板書をもとにキーワードに赤線を引かせどの児童も内容が正確に読み取れるようにする。 板書には線を引くだけでなく、必要に応じて心情も書き込んでいく。 順序を表す言葉や場面の様子に着目して読み取らせるようにする。
<ul style="list-style-type: none"> 考えをどのように比べるのか、観点や手順を具体的に示す。 他人と考えが違っていても良いことを児童に伝える。 考えの違いを児童だけで見つけられない場合には、教師も話し合いに加わり助言する。 児童の考えが類似している場合には、根拠となる言葉や文も同じなのか、ほかには、この考えの根拠になっている言葉はないのか、考えさせる。 	<ul style="list-style-type: none"> ノートの記述を基に考えを比べ合う。 <p>比べる観点</p> <ul style="list-style-type: none"> 考えの同じところ、違うところはどこか。 それぞれの考えの理由になっているキーワードは何か。 <p>比べる手順</p> <p>友達の考えを聞いて、自分の考えと照らし合わせる。もし、友達のノートに波線が引いてあれば自分のノートにも青線を引く。考えの同じところや違うところを見つける。同じ理由や違う理由をキーワードを基に話し合う。</p>	<ul style="list-style-type: none"> 5. 考えを比べる 友達と考えを交流し、共通点や相違点を明らかにする 自分の考えと友達の考えを比べて、同じところ、違うところを見つけ、そう考えた理由を話し合おう。 <p>話し合いの進め方(例)</p> <p>くんは、先に聞かせて。次は、ぼくの考えを話さよ。考えをくらべてみよう。</p> <p>くんは、～に線を引いたんだね。</p> <p>くんは、～に引いたんだね。くんと、ぼくの考えは、少しにているね。キーワードは、これとこれが同じだね。でも、このキーワードはちがうね。どうして、このキーワードをえらんだの？</p> <p>くんの考えは、ぼくの考えとここがちがっているね。これはどのキーワードから～と考えたの？</p> <p>それはね。このキーワードから～だと思ったんだよ。</p>	間接	<ul style="list-style-type: none"> 5. 課題に対する自分の考えをもつ 読み取りを基に最初の言葉を覚えた理由を考え、ノートに書き込むことで自分の考えをはっきり形に表す。 みんなの考えをノートに書いてみよう。 <p>予想される児童の反応</p> <ul style="list-style-type: none"> お母さんが、いつも「一つだけ。一つだけ。」と言っていたから。 一つだけだったら、もらえと思ったから。 お母さんの口ぐせを覚えてしまったから。 	<ul style="list-style-type: none"> 手順にしたがって、自分の考えをノートに書く。 <p>考えをもつ手順</p> <p>赤線のほかにも大切だと思った言葉には波線を引く。学習課題に対する考えをノートに書く。</p> <p>ノート上段の教材文から考えの理由になるキーワードを見つけ下段の考えと線をつなぐ。</p>	<ul style="list-style-type: none"> 間接指導に入る前に児童だけで学習を進められるように考えをもつための手順を示す。 自分の考えの根拠を明確にできるようにキーワードと結び付けさせるようにする。 	ふりかえる
<ul style="list-style-type: none"> 考えを広げ深めることができるように、考えを見直すための観点を示す。 最後に課題に対する考えを感想もまじえて書かせる。その際、今日の学習を振り返るとともに友達の考えを聞いて、自分の考えに取り入れたいと思ったことや学習をとおして、さらに考えたことなどを加えて、学習のまとめをさせる。 	<ul style="list-style-type: none"> ノートに見直した考えを記述する。 <p>見直しの観点</p> <ul style="list-style-type: none"> 自分の考えで足りないところはどこか。 友達の考えを聞いて、さらに考えてみたいと思ったところはどこか。 	<ul style="list-style-type: none"> 6. 考えを見直す 学習を振り返り、学んだ読み方をまとめる。 <p>予想される児童の見直した考え</p> <ul style="list-style-type: none"> 戦争に行ったお父さんが教えてくれた遊びだし、家族4人で遊んだ最後の遊びだから、お父さんの思い出が詰まっている大事な遊びだから。 かけおくりをすると、戦争に行ったお父さんとの楽しい日を思い出せることができる。 4人でかけおくりをしたことは、お父さんとお母さんが記念写真と言っていたので、家族がみんなそろった最後の思い出だから。 	間接	<ul style="list-style-type: none"> 6. 考えを比べる 友達と考えを交流し、共通点や相違点を明らかにする <p>自分の考えと友達の考えを比べて、同じところ、違うところを見つけ、そう考えた理由を話し合おう。</p> <p>話し合いの進め方(例)</p> <p>くんの考えを先に聞かせて。次は、ぼくの考えを話さよ。考えをくらべてみよう。</p> <p>くんは、～に線を引いたんだね。</p> <p>くんは、～に引いたんだね。くんと、ぼくの考えは、少しにているね。キーワードは、これとこれが同じだね。でも、このキーワードはちがうね。どうして、このキーワードをえらんだの？</p> <p>くんの考えは、ぼくの考えとここがちがっているね。どのキーワードから～と考えたの？</p> <p>それはね。このキーワードから～だと思ったんだよ。</p>	<ul style="list-style-type: none"> ノートの記述を基に考えを比べ合う。 <p>比べる観点</p> <ul style="list-style-type: none"> 考えの同じところ、違うところはどこか。 お互いの考えの理由になっているキーワードは何か。 <p>比べる手順</p> <p>友達の考えを聞いて、自分の考えと照らし合わせる。もし、友達のノートに波線が引いてあれば自分のノートにも青線を引く。考えの同じところや違うところを見つける。同じ理由や違う理由をキーワードを基に話し合う。友達の考えで大事なと思ったことをメモする。</p>	<ul style="list-style-type: none"> 考えをどのように比べるのか、観点や手順を具体的に示す。 友達と考えが違っていても良いことを児童に伝える。 児童の考えに共通点がある場合には、なぜ同じになったのか他には、この考えの根拠となる言葉がないのかなどを考えさせる。 相違点については、違いの理由が何に基づいているのか、根拠になる言葉や文から気付かせる。 	

(2 の場面 / 4 時)

3 年の目標

・空襲の様子やひとりぼっちになってしまったちいちゃんの気持ちを読み取ることができる。

4 年の目標

・ゆみ子の将来を心配する両親の気持ちを読み取ることができる。

段階	3 年			4 年			段階
	指導上の留意点 手だての試案による配慮事項	ノートの活用	学 習 活 動 (主な発問・指示)	形態	学 習 活 動 (主な発問・指示)	ノートの活用	
とらえる	<p>・学習の見通しを持たせて、本時の学習に意欲的に取り組めるようにする。</p> <p>・課題について考えながら読むように指示する。</p> <p>・板書を基にキーワードに赤線を引かせ、どの児童も内容が正確に読み取れるようにする。</p> <p>・板書には線を引くだけでなく、必要に応じて心情も書き込んでいく。</p> <p>順序を表す言葉や場面の様子に着目して読み取らせるようにする。</p>	<p>・学習課題を書く。</p> <p>・教師と一緒に、キーワードに赤線を引いていく。</p> <p>読み取りの観点とキーワード</p> <p>・空襲の様子 「空襲警報」「サイレン」「赤い火」「あちこちに」「風の強い日」「だれかがさげんで」「風があつく」「ほのおのうず」「おいかけて」「だき上げて走り」「ひどいけが」「おいぬかれたり、ぶつかったり」</p> <p>・ひとりぼっちになったちいちゃんの気持ち 「お母ちゃん、お母ちゃん」「ちいちゃんはさげび」「お母さんらしき人」「お母ちゃん」「ちいちゃんがさげぶと」「お母さんではありません」「たくさんの人たちの中で」</p>	<p>1. 学習課題を確認する</p> <p>たくさんの人たちの中でねむるちいちゃんは、どんなことを思っただろう。</p> <p>2. 学習場面を音読する</p> <p>・二の場面を読む。</p> <p>3. 場面の内容を読み取る</p> <p>・教師といっしょに、内容を読み取る。大事な言葉に線をひこう。</p>	間接	<p>1. 考えを見直す</p> <p>・前時学習をノートの記述から想起する。</p> <p>・前時の学習で学んだ読み方をまとめる。</p> <p>・本時の学習場面を讀んだり、学習課題について考えたり、準備をする。</p> <p>予想される児童の見直した考え</p> <p>・戦争がはげしかったから、食べるものはほとんどなかった。だから、おなかをすかせたゆみ子にほんとうは、たくさん食べさせたかったんだけど、できなかった。それでも、お母さんは、自分の分からゆみ子にあげていた。それでも、いつも一つしかあげることができず、それが、お母さんの口ぐせになってしまい、ゆみ子がそれを覚えてしまった。</p>	<p>・ノートに見直した考えを記述する。</p> <p>見直しの観点</p> <p>・自分の考えで足りないところはどこか。</p> <p>・友達の考えを聞いて、さらに考えてみたいと思ったところはどこか。</p>	<p>・前時の学習を十分想起させ、考えを見直すための観点を示す</p> <p>・前時の課題に対する考えを感想もまじえて書かせる。その際前時の学習を振り返るとともに友達の考えを聞いて自分の考えに取り入れたい思ったことや学習を通してさらに考えたことなどを加えて、学習のまとめをさせる。</p>
	<p>・間接指導に入る前に児童だけで学習を進められるように考えをもつための手順を示す。</p> <p>自分の考えの根拠を明確にできるようにキーワードと結び付けさせるようにする。</p>	<p>・手順にしたがって、自分の考えをノートに書く。</p> <p>考えをもつ手順</p> <p>赤線のほかにも大切な言葉には波線を引く。</p> <p>学習課題に対する考えをノートに書く。ノート上段の教材文から考えの理由になるキーワードを見つけ、下段の考えと線がつながる。</p>	<p>4. 課題に対する自分の考えをもつ</p> <p>・読み取りを基にちいちゃんの気持ちと考え、ノートに書き込むことで自分の考えをはっきり形に表す。</p> <p>みんなの考えをノートに書いてみよう。</p> <p>予想される児童の考え</p> <p>・ひとりぼっちでさびしいよ。お母ちゃん、お兄ちゃん、どこにいるの。</p> <p>・お母ちゃん、わたしだけを置いてどこに行ったの。早くむかえに来てちょうだい。</p>	間接	<p>2. 学習課題を確認する</p> <p>お父さんは、ゆみ子をめちゃくちゃに高い高いしながら、どんなことを思っただろう。</p> <p>3. 学習場面を音読する</p> <p>・二の場面を読む。</p> <p>4. 場面の内容を読み取る</p> <p>・教師といっしょに、内容を読み取る。大事な言葉に線をひこう。</p> <p>読み取りの観点とキーワード</p> <p>・ゆみ子の将来を心配する両親の気持ち 「なんてかわいそうな子」「なんでももらえと思ってる」「深いため息」「一生」「みんなちょうだい」「山ほどちょうだい」「両手を出すことを知らずに」「みんな一つだけ」「一つだけの喜び」「一つだってもらえないかも」「どんな子に育つだろう」</p>	<p>・学習課題を書く。</p> <p>・教師と一緒にキーワードに赤線を引いていく。</p>	<p>・学習の見通しを持たせて、本時の学習に意欲的に取り組めるようにする。</p> <p>・課題について考えながら読むように指示する。</p> <p>・板書をもとにキーワードに赤線を引かせどの児童も内容が正確に読み取れるようにする。</p> <p>・板書には線を引くだけでなく、必要に応じて心情も書き込んでいく。</p> <p>順序を表す言葉や場面の様子に着目して読み取らせるようにする。</p>
ふりがえる	<p>考えをどのように比べるのか、観点や手順を具体的に示す。</p> <p>他人と考えが違っていても良いことを児童に伝える。</p> <p>・考えの違いを児童だけで見つけられない場合には、教師も話し合いに加わり助言する。</p> <p>・児童の考えが類似している場合には、根拠となる言葉も同じなのが、ほかには、この考えの根拠になっている言葉はないのか、考えさせる。</p>	<p>・ノートの記述を基に考えを比べ合う。</p> <p>比べる観点</p> <p>・考えの同じところ、違うところはどこか。</p> <p>・それぞれの考えの理由になっているキーワードは何か。</p> <p>比べる手順</p> <p>友達の考えを聞いて自分の考えと照らし合わせる。</p> <p>もし、友達のノートに波線が引いてあれば自分のノートにも青線を引く。</p> <p>考えの同じところや違うところを見つける。</p> <p>同じ理由や違う理由をキーワードを基に話し合う。</p>	<p>5. 考えを比べる</p> <p>・友達と考えを交流し、共通点や相違点を明らかにする</p> <p>自分の考えと友達の考えを比べて、同じところ、違うところを見つけ、そう考えた理由を話し合おう。</p> <p>話し合いの進め方(例)</p> <p>くんの考えを先に聞かせて。次は、ぼくの考えを話すよ。考えをくらべてみよう。</p> <p>くんは、～に線を引いたんだね。</p> <p>くんは、～に引いたんだね。</p> <p>くんと、ぼくの考えは、これとこれが同じだね。でも、このキーワードはちがうね。どうして、このキーワードをえらんだの？</p> <p>くんの考えは、ぼくの考えとここがちがっているね。これはどのキーワードから～と考えたの？</p> <p>それはね。このキーワードから～だと思ったんだよ。</p>	間接	<p>5. 課題に対する自分の考えをもつ</p> <p>・読み取りを基にお父さんの気持ちを考え、ノートに書き込むことで自分の考えをはっきり形に表す。</p> <p>みんなの考えをノートに書いてみよう。</p> <p>予想される児童の考え</p> <p>・ゆみ子が大きくなって、どんな子に育つか心配だ。</p> <p>・この子は、一生、みんなちょうだい、山ほどちょうだいと言って、両手を出すことを知らずにすすずかもしれない。</p>	<p>・手順にしたがって、自分の考えをノートに書く。</p> <p>考えをもつ手順</p> <p>赤線のほかにも大切な言葉には波線を引く。</p> <p>学習課題に対する考えをノートに書く。ノート上段の教材文から考えの理由になるキーワードを見つけ、下段の考えと線がつながる。</p>	<p>・間接指導に入る前に児童だけで学習を進められるように考えをもつための手順を示す。</p> <p>自分の考えの根拠を明確にできるようにキーワードと結び付けさせるようにする。</p>
	<p>考えを広げ深めることができるように、考えを見直すための観点を示す。</p> <p>最後に課題に対する考えを感想もまじえて書かせる。その際、今日の学習を振り返るとともに友達の考えを聞いて、自分の考えに取り入れたいと思ったことや学習をとおして、さらに考えたことなどを加えて、学習のまとめをさせる。</p>	<p>・ノートに見直した考えを記述する。</p> <p>見直しの観点</p> <p>・自分の考えで足りないところはどこか。</p> <p>・友達の考えを聞いて、さらに考えてみたいと思ったところはどこか。</p>	<p>6. 考えを見直す</p> <p>・学習を振り返り、学んだ読み方をまとめる。</p> <p>予想される児童の見直した考え</p> <p>・さっきの人がお母ちゃんだったらよかったの。お母ちゃん、お兄ちゃん、いつかどこにいったの。ひとりぼっちでさびしいよ。</p> <p>・お母ちゃんは、後から来るって、おじさんが言った。だから明日になれば、きっと会えると思う。</p>	間接	<p>6. 考えを比べる</p> <p>・友達と考えを交流し、共通点や相違点を明らかにする</p> <p>自分の考えと友達の考えを比べて、同じところ、違うところを見つけ、そう考えた理由を話し合おう。</p> <p>話し合いの進め方(例)</p> <p>くんの考えを先に聞かせて。次は、ぼくの考えを話すよ。考えをくらべてみよう。</p> <p>くんは、～に線を引いたんだね。</p> <p>くんは、～に引いたんだね。</p> <p>くんと、ぼくの考えは、少しにているね。キーワードは、これとこれが同じだね。でも、このキーワードはちがうね。どうして、このキーワードをえらんだの？</p> <p>くんの考えは、ぼくの考えとここがちがっているね。どのキーワードから～と考えたの？</p> <p>それはね。このキーワードから～だと思ったんだよ。</p>	<p>・ノートの記述を基に考えを比べ合う。</p> <p>比べる観点</p> <p>・考えの同じところ違うところはどこか。</p> <p>・お互いの考えの理由になっているキーワードは何か。</p> <p>比べる手順</p> <p>友達の考えを聞いて、自分の考えと照らし合わせる。</p> <p>もし、友達のノートに波線が引いてあれば自分のノートにも青線を引く。</p> <p>考えの同じところや違うところを見つける。</p> <p>同じ理由や違う理由をキーワードを基に話し合う。</p> <p>友達の考えで大事だと思ったことをメモする。</p>	<p>考えをどのように比べるのか、観点や手順を具体的に示す。</p> <p>友達と考えが違っていても良いことを児童に伝える。</p> <p>・児童の考えに共通点がある場合には、なぜ同じになったのか他には、この考えの根拠となる言葉がないのかなどを考えさせる。</p> <p>・相違点については、違いの理由が何に基づいているのか、根拠になる言葉や文から気付かせる。</p>

(3の場面 / 5時)

(1)3年の目標

・はぐれた家族に会えると信じて待っているちいちゃんの気持ちを読み取ることができる。

(1)4年の目標

・父親が出征する日の家族の様子や両親の気持ちを読み取ることができる。

3年		4年					
段階	指導上の留意点 手だての試案による配慮事項	学習活動(主な発問・指示)	形態	学習活動(主な発問・指示)	指導上の留意点 手だての試案による配慮事項	段階	
とらえる	<ul style="list-style-type: none"> 学習の見通しを持たせて、本時の学習に意欲的に取り組めるようにする。 課題について考えながら読むように指示する。 板書を基にキーワードに赤線を引かせ、どの児童も内容が正確に読み取れるようにする。 板書には線を引くだけでなく、必要に応じて心情も書き込んでいく。 順序を表す言葉や場面の様子に着目して読み取らせるようにする。 	<ul style="list-style-type: none"> 学習課題を書く。 キーワードに赤線を引いていく。 	<p>1. 学習課題を確認する</p> <p>こわれかかったぼう空ごうの中で、一人だねむるちいちゃんはどうなことを思っただろう。</p> <p>2. 学習場面を音読する</p> <ul style="list-style-type: none"> 四の場面を読む。 <p>3. 場面の内容を読み取る</p> <ul style="list-style-type: none"> 教師といっしょに、内容を読み取る。大事な言葉に線をひこう。 	<p>1. 考えを見直す</p> <ul style="list-style-type: none"> 前時学習をノートの記述から想起する 前時の学習で学んだ読み方をまとめる 本時の学習場面を読んだり、学習課題について考えたり、準備をする <p>予想される児童の見直した考え</p> <p>なんてかわいそうなんだろう。もらえるものはみんな一つだけしかない。本当は、おなかいっぱい食べさせたいのに、それができないのがとてもつらい。このままでは、大きくなって、じょうぶな子に育つのだろうか。ゆみ子には、ぜったいしあわせになってほしいのに、おれには、どうすることもできない。</p>	<ul style="list-style-type: none"> ノートに見直した考えを記述する。 自分の考えで足りないところはどこか。 友達の考えを聞いて、さらに考えてみたいと思ったところはどこか。 	<ul style="list-style-type: none"> 前時の学習を十分想起させ、考えを見直すための観点を示す 前時の課題に対する考えを感想もまじえて書かせる。その際前時の学習を振り返るとともに友達の考えを聞いて自分の考えに取り入れたい思ったことや学習を通してさらに考えたことなど、もう一度学習課題について考えさせる 	ふりかえる
	<ul style="list-style-type: none"> 間接指導に入る前に児童だけで学習を進められるように考えをもつための手順を示す。 <p>自分の考えの根拠を明確にできるようにキーワードと結び付けさせるようにする。</p>	<ul style="list-style-type: none"> 手順にしたがって、自分の考えをノートに書く。 <p>考えをもつ手順</p> <p>赤線のほかにも大切だと思った言葉や文には波線を引く。学習課題に対する考えをノートに書く。ノートの上段から考えの理由になるキーワードを見つけ、下段の考えと線でつなぐ。</p>	<p>4. 課題に対する自分の考えをもつ</p> <ul style="list-style-type: none"> 読み取りを基にちいちゃんの気持ちを考えて、ノートに書き込むことで自分の考えをはっきり形に表す。 <p>みんなの考えをノートに書いてみよう。</p> <p>予想される児童の考え</p> <ul style="list-style-type: none"> お母ちゃんとお兄ちゃんは、きっと帰ってくるよ。だからここで待たせていよう。 おなかがすいたし、こわいよ。お母ちゃん、早く帰ってきて。 みんなの家が焼けてしまった。あたしたちの部屋もなくなってしまった。 	<p>2. 学習課題を確認する</p> <p>お父さんが戦争に行く日、お母さんとお父さんは、それぞれどんなことを思っただろう。</p> <p>3. 学習場面を音読する</p> <ul style="list-style-type: none"> 四の場面を読む。 <p>4. 場面の内容を読み取る</p> <ul style="list-style-type: none"> 教師といっしょに、内容を読み取る。大事な言葉に線をひこう。 <p>読み取りの観点とキーワード</p> <ul style="list-style-type: none"> 戦争の状況 「あまりじょうぶでない」「戦争に行かなければならない日」「防空ずきん」「包帯」「お薬」「配給のきつぷ」「大事なお母」 戦争に行く日の両親の気持ち [泣き顔]「見せたくない」「小さくばんざい」「歌を歌って」「まるで、戦争に行く人ではないかのよう」 	<ul style="list-style-type: none"> 学習課題を書く。 キーワードに赤線を引いていく。 	<ul style="list-style-type: none"> 学習の見通しを持たせて、本時の学習に意欲的に取り組めるようにする。 課題について考えながら読むように指示する。 板書をもとにキーワードに赤線を引かせどの児童も内容が正確に読み取れるようにする。 板書には線を引くだけでなく、必要に応じて心情も書き込んでいく。 順序を表す言葉や場面の様子に着目して読み取らせるようにする。 	
ふかめる	<ul style="list-style-type: none"> 考えをどのように比べるのか、観点や手順を具体的に示す。 他人と考えが違っていても良いことを児童に伝える。 考えの違いを児童だけで見つけられない場合には、教師も話し合いに加わり助言する。 児童の考えが類似している場合には、根拠となる言葉や文も同じなのか、ほかには、この考えの根拠になっている言葉はないのか、考えさせる。 	<ul style="list-style-type: none"> ノートの記述を基に考えを比べ合う。 <p>比べる観点</p> <ul style="list-style-type: none"> 考えの同じところ、違うところはどこか それぞれの考えの理由になっているキーワードは何か。 <p>比べる手順</p> <p>友達の考えを聞いて、自分の考えと照らし合わせる。もし、友達のノートにも波線が引いてあれば、自分のノートにも青線を引く。考えの同じところや違うところを見つける。同じ理由や違う理由をキーワードを基に話し合う。</p>	<p>5. 考えを比べる</p> <ul style="list-style-type: none"> 友達と考えを交流し、共通点や相違点を明らかにする 自分の考えと友達の考えを比べて、同じところ、違うところを見つけ、そう考えた理由を話し合う。 <p>話し合いの進め方(例)</p> <p>くんの考えを先に聞かせて。次は、ぼくの考えを話すよ。</p> <p>くんは、～に線を引いたんだね。</p> <p>くんは、～に引いたんだね。</p> <p>くんと、ぼくの考えは、少しにているね。キーワードは、これとこれが同じだね。でも、このキーワードはちがうね。どうして、このキーワードをえらんだの？</p> <p>くんの考えは、ぼくの考えとちがっているね。どうして～と考えたの？</p> <p>それはね。この言葉からちいちゃんが～だと思ったからだよ。</p>	<p>5. 課題に対する自分の考えをもつ</p> <ul style="list-style-type: none"> 読み取りを基にちいちゃんの気持ちを考えて、ノートに書き込むことで自分の考えをはっきり形に表す。 みんなの考えをノートに書いてみよう。 <p>予想される児童の考え</p> <p>お母さん</p> <ul style="list-style-type: none"> 戦争に行く日なのに、お父さんにゆみ子の泣き顔を見せたくない。しかたがないから、おにぎりをゆみ子にあげてしまおう。 <p>お父さん</p> <ul style="list-style-type: none"> もうゆみ子に会えないかもしれない。 戦争に行きたくない。 	<ul style="list-style-type: none"> 手順にしたがって、自分の考えをノートに書く。 <p>考えをもつ手順</p> <p>赤線のほかにも大切だと思った言葉や文には波線を引く。学習課題に対する考えをノートに書く。ノートの上段から考えの理由になるキーワードを見つけ、下段の考えと線でつなぐ。</p>	<ul style="list-style-type: none"> 間接指導に入る前に児童だけで学習を進められるように考えをもつための手順を示す。 自分の考えの根拠を明確にできるようにキーワードと結び付けさせるようにする。 	ふかめる
	<ul style="list-style-type: none"> 考えを広げ深めることができるように、考えを見直すための観点を示す。 最後に課題に対する考えを感想もまじえて書かせる。その際、今日の学習を振り返るとともに友達の考えを聞いて、自分の考えに取り入れたいと思ったことや学習をとおして、さらに考えたことなどを加えて、もう一度、学習課題について考えさせる。 	<ul style="list-style-type: none"> ノートに見直した考えを記述する。 <p>見直しの観点</p> <ul style="list-style-type: none"> 自分の考えで足りないところはどこか。 友達の考えを聞いてさらに考えてみたいと思ったところはどこか。 	<p>6. 考えを見直す</p> <ul style="list-style-type: none"> 学習を振り返り、学んだ読み方をまとめる。 <p>予想される児童の見直した考え</p> <ul style="list-style-type: none"> あたしたちの家は焼けてなくなってしまったけど、お母ちゃんたちは、きっとここに帰ってくると信じてる。それまで、ずっと待ってるよ。 	<p>5. 考えを比べる</p> <ul style="list-style-type: none"> 友達と考えを交流し、共通点や相違点を明らかにする 自分の考えと友達の考えを比べて、同じところ、違うところを見つけ、そう考えた理由を話し合う。 <p>話し合いの進め方(例)</p> <p>くんの考えを先に聞かせて。次は、ぼくの考えを話すよ。</p> <p>くんは、～に線を引いたんだね。</p> <p>くんは、～に引いたんだね。</p> <p>くんと、ぼくの考えは、少しにているね。キーワードは、これとこれが同じだね。でも、このキーワードはちがうね。どうして、このキーワードをえらんだの？</p> <p>くんの考えは、ぼくの考えとちがっているね。どのキーワードから～と考えたの？</p> <p>この言葉からちいちゃんが～だと思ったんだよ。</p>	<ul style="list-style-type: none"> ノートの記事を基に考えを比べ合う。 <p>比べる観点</p> <ul style="list-style-type: none"> 考えの同じところ、違うところはどこか。 お互いの考えの理由になっているキーワードは何か。 <p>比べる手順</p> <p>友達の考えを聞いて、自分の考えと照らし合わせる。もし、友達のノートにも波線が引いてあれば自分のノートにも青線を引く。考えの同じところや違うところを見つける。同じ理由や違う理由をキーワードを基に話し合う。友達の考えで大事なと思ったことをメモする。</p>	<ul style="list-style-type: none"> 考えをどのように比べるのか、観点や手順を具体的に示す。 友達と考えが違っていても良いことを児童に伝える。 児童の考えに共通点がある場合には、なぜ同じになったのか他には、この考えの根拠となる言葉がないのかなどを考えさせる。 相違点については、違いの理由が何に基づいているのか、根拠になる言葉や文から気付かせる。 	

(4の場面 / 6時)

(1)3年の目標

・たった一人でかけおくりをして家族に会えたちいちゃんのお気持ちを読み取ることができる。

(1)4年の目標

・一輪のコスモスの花にこめられた父親の願いを読み取ることができる。

3年		4年				
段階	指導上の留意点 手だての試案による配慮事項	学習活動(主な発問・指示)	形態	学習活動(主な発問・指示)	指導上の留意点 手だての試案による配慮事項	段階
とらえる	<ul style="list-style-type: none"> 学習の見通しを持たせて、本時の学習に意欲的に取り組めるようにする。 課題について考えながら読むように指示する。 板書を基にキーワードに赤線を引かせ、どの児童も内容が正確に読み取れるようにする。 板書には線を引くだけでなく、必要に応じて心情も書き込んでいく。 順序を表す言葉や場面の様子に着目して読み取らせるようにする。 	<ul style="list-style-type: none"> 学習課題を書く。 教師と一緒に、キーワードに赤線を引いていく。 読み取りの観点とキーワード <ul style="list-style-type: none"> 厳しい環境で数日過ごしたちいちゃんの様子「明るい光」「暑いような寒いような」「ひどくのどがかわいて」「太陽は、高く上がって」「青い空からふって」 たった一人でかけおくりをするちいちゃんの様子「ふらふらする足」「たった一つのかけぼうしを見つめ」「くっきりと白いかけが四つ」「体がすきとおって」「空にすいこまれて」 家族にやっと会えたちいちゃんのお気持ち「空色の花鳥の中」「空の上」「おながすいて軽くなった」「わらいながら歩いて」「なあんだ」「こんな所にいた」「きらきらわらい」「走り出し」「小さな女の子の命」「空に消え」 	直接	<ul style="list-style-type: none"> 考えを見直す 前時学習をノートの記述から想起する。 前時の学習で学んだ読み方をまとめる。 本時の学習場面を読んだり、学習課題について考えたり、準備をする。 予想される児童の見直した考え お母さん ・どうして、体のあまりじょうぶでない、お父さんまで戦争にいかなければならぬのだから。もしかして、もう、お父さんは帰ってこないかもしれない。 戦争に行くお父さんを笑顔で見送ってあげたい。だから、お父さんのために大事なお米で作ったおにぎりだけ、ゆみ子にあげてしまおう。 お父さん ・どうして、戦争に行かなければならぬのだから。おれが戦争に行ったら、ゆみ子はどうなってしまうのか。 	<ul style="list-style-type: none"> ノートに見直した考えを記述する。 見直しの観点 <ul style="list-style-type: none"> 自分の考えで足りないところはどこか。 友達の考えを聞いて、さらに考えてみたいと思ったところはどこか。 	<ul style="list-style-type: none"> 前時の学習を十分想起させ、考えを見直すための観点を示す 前時の課題に対する考えを感想もまじえて書かせる。その際前時の学習を振り返るとともに友達の考えを聞いて自分の考えに取り入れたい思ったことや学習を通してさらに考えたことなどを加えて、学習のまとめをさせる。
	<ul style="list-style-type: none"> 間接指導に入る前に児童だけで学習を進められるようにするための手順を示す。 自分の考えの根拠を明確にできるようにキーワードと結び付けさせるようにする。 	<ul style="list-style-type: none"> 手順にしたがって、自分の考えをノートに書く。 考えをもつ手順 赤線のほかにも大切だと思った言葉には波線を引く。学習課題に対する考えをノートに書く。ノート上段の教材文から考えの理由になるキーワードを見つけ、下段の考えと線でつなぐ。 	間接	<ul style="list-style-type: none"> 2. 学習課題を確認する どうしてお父さんは、コスモスの花を一輪あげたのだから。 3. 学習場面を音読する 四の場面を読む。 4. 場面の内容を読み取る 教師といっしょに、内容を読み取る。大事な言葉に線をひこう。 読み取りの観点とキーワード <ul style="list-style-type: none"> プラットホームでのゆみ子の様子「いよいよ汽車が入ってくるというとき」「またゆみ子の」「一つだけちょうだい」「みんなおやりよ」「とうとう泣き出して」「一つだけ」 一輪のコスモスの花をゆみ子にあげたお父さんの気持ち「ぶいといなくなつて」「ごみすて場のような所」「わすれられたように」「コスモスの花」「一輪のコスモスの花」「ひとつだけあげよう」「一つだけのお花」「大事に」「キャッキャッ」「足をばたつかせて」「にっこり笑う」「何も言わず」「一つの花を見つめながら」 	<ul style="list-style-type: none"> 学習課題を書く。 教師と一緒にキーワードに赤線を引いていく。 	<ul style="list-style-type: none"> 学習の見通しを持たせて、本時の学習に意欲的に取り組めるようにする。 課題について考えながら読むように指示する。 板書をもとにキーワードに赤線を引かせどの児童も内容が正確に読み取れるようにする。 板書には線を引くだけでなく、必要に応じて心情も書き込んでいく。 順序を表す言葉や場面の様子に着目して読み取らせるようにする。
ふかめる	<ul style="list-style-type: none"> 考えをどのように比べるのか、観点や手順を具体的に示す。 他人と考えが違っていても良いことを児童に伝える。 考えの違いを児童だけで見つけられない場合には、教師も話し合いに加わり助言する。 児童の考えが類似している場合には、根拠となる言葉も同じなのか、ほかには、この考えの根拠になっている言葉はないのか、考えさせる。 	<ul style="list-style-type: none"> ノートの記述を基に考えを比べ合う。 比べる観点 <ul style="list-style-type: none"> 考えの同じところ、違うところはどこか。 それぞれの考えの理由になっているキーワードは何か。 比べる手順 友達の考えを聞いて自分の考えと照らし合わせる。もし、友達のノートに波線が引いてあれば自分のノートにも青線を引く。考えの同じところや違うところを見つける。同じ理由や違う理由をキーワードを基に話し合う。 	間接	<ul style="list-style-type: none"> 5. 課題に対する自分の考えをもつ 読み取りを基にお父さんの気持ちを考え、ノートに書き込むことで自分の考えをはっきり形に表す。 みんなの考えをノートに書いてみよう。 予想される児童の考え ・コスモスは、もっとたくさんさいていたと思う。でも、ゆみ子が、「一つだけ。一つだけ。」と言っているの、一つだけあげたのだと思う。 お父さんは、コスモスをもっとたくさんあげたかったんだけど、たった一輪しかさいていなかったんだと思う。だから、かわりに一輪のコスモスにいるんな気持ちをこめてゆみ子にわたしたんだと思う。 	<ul style="list-style-type: none"> 手順にしたがって、自分の考えをノートに書く。 考えをもつ手順 赤線のほかにも大切だと思った言葉には波線を引く。学習課題に対する考えをノートに書く。ノート上段の教材文から考えの理由になるキーワードを見つけ、下段の考えと線でつなぐ。 	<ul style="list-style-type: none"> 間接指導に入る前に児童だけで学習を進められるように考えをもつための手順を示す。 自分の考えの根拠を明確にできるようにキーワードと結び付けさせるようにする。
	<ul style="list-style-type: none"> 考えを広げ深めることができるように、考えを見直すための観点を示す。 最後に課題に対する考えを感想もまじえて書かせる。その際、今日の学習を振り返るとともに友達の考えを聞いて、自分の考えに取り入れたいと思ったことや学習をとおして、さらに考えたことなどを加えて、学習のまとめをさせる。 	<ul style="list-style-type: none"> ノートに見直した考えを記述する。 見直しの観点 <ul style="list-style-type: none"> 自分の考えで足りないところはどこか。 友達の考えを聞いて、さらに考えてみたいと思ったところはどこか。 	間接	<ul style="list-style-type: none"> 6. 考えを見直す 学習を振り返り、学んだ読み方をまとめる。 予想される児童の見直した考え <ul style="list-style-type: none"> ちいちゃんは、今にも死にそうなくらい苦しかった。だから、青い空を見て、家族みんなやった楽しいかけおくりの事を思い出したんだと思う。青い空からふってきたお父さんの声やお母さんの声を聞いたら、みんながすぐそばにいるような気がして、うれしかったと思う。きつと帰ってくるはずと信じて待っていたお母さんとお兄ちゃんだけでなく、お父さんにもやっと会えたのだから、ちいちゃんは、とてもしあわせな気持ちできらきらわらいながら走り出したのだと思う。 	<ul style="list-style-type: none"> ノートの記述を基に考えを比べ合う。 比べる観点 <ul style="list-style-type: none"> 考えの同じところ違うところはどこか。 お互いの考えの理由になっているキーワードは何か。 比べる手順 友達の考えを聞いて、自分の考えと照らし合わせる。もし、友達のノートに波線が引いてあれば自分のノートにも青線を引く。考えの同じところや違うところを見つける。同じ理由や違う理由をキーワードを基に話し合う。友達の考えで大事だと思ったことをメモする。 	<ul style="list-style-type: none"> 考えをどのように比べるのか、観点や手順を具体的に示す。 友達と考えが違っていても良いことを児童に伝える。 児童の考えに共通点がある場合には、なぜ同じになったのか他には、この考えの根拠となる言葉がないのかなどを考えさせる。 相違点については、違いの理由が何に基づいているのか、根拠になる言葉や文から気付かせる。

(5の場面 / 7時)

3年の目標

・1～4の場面と5の場面を比べながら読み、平和な暮らしの様子を読み取ることができる。

4年の目標

・お母さんを助け、平和に暮らすゆみ子の様子を読み取ることができる。

3年		4年				
段階	指導上の留意点 手だての試案による配慮事項	学習活動(主な発問・指示)	形態	学習活動(主な発問・指示)	指導上の留意点 手だての試案による配慮事項	段階
とらえる	<ul style="list-style-type: none"> 学習の見通しを持たせて、本時の学習に意欲的に取り組めるようにする。 課題について考えながら読むように指示する。 板書を基にキーワードに赤線を引かせ、どの児童も内容が正確に読み取れるようにする。 板書には線を引くだけでなく、必要に応じて心情も書き込んでいく。 順序を表す言葉や場面の様子に着目して読み取らせるようにする。 	<ul style="list-style-type: none"> 学習課題を書く。 教師と一緒に、キーワードに赤線を引いていく。 	<ul style="list-style-type: none"> 1. 学習課題を確認する もしも戦争がなかったら、ちいちゃんはどうしているだろう。 2. 学習場面を音読する ・五の場面を読む。 3. 場面の内容を読み取る ・教師といっしょに、内容を読み取る。大事な言葉に線をひこう。 	<ul style="list-style-type: none"> 1. 考えを見直す ・前時学習をノートの記述から想起する。 ・前時の学習で学んだ読み方をまとめる。 ・本時の学習場面を読んだり、学習課題について考えたり、準備をする。 	<ul style="list-style-type: none"> ・ノートに見直した考えを記述する。 	<ul style="list-style-type: none"> ・前時の学習を十分想起させ、考えを見直すための観点を示す ・前時の課題に対する考えを感想もまじえて書かせる。その際前時の学習を振り返るとともに友達のことを聞いて自分の考えに取り入れたい思ったことや学習を通してさらに考えたことなどを加えて、学習のまとめをさせる。
	<ul style="list-style-type: none"> ・間接指導に入る前に児童だけで学習を進められるように考えをもつための手順を示す。 自分の考えの根拠を明確にできるようにキーワードと結び付けさせるようにする。 	<ul style="list-style-type: none"> ・手順にしたがって、自分の考えをノートに書く。 	<ul style="list-style-type: none"> 4. 課題に対する自分の考えをもつ ・読み取りを基に戦争がなかった時のちいちゃんの生活を考え、ノートに書き込むことで自分の考えをはっきり形に表す。 	<ul style="list-style-type: none"> 2. 学習課題を確認する ゆみ子は、どんな子に育っただろう。 3. 学習場面を音読する ・五の場面を読む。 4. 場面の内容を読み取る ・教師といっしょに、内容を読み取る。大事な言葉に線をひこう。 	<ul style="list-style-type: none"> ・学習課題を書く。 ・教師と一緒にキーワードに赤線を引いていく。 	<ul style="list-style-type: none"> ・学習の見通しを持たせて、本時の学習に意欲的に取り組めるようにする。 ・課題について考えながら読むように指示する。 ・板書をもとにキーワードに赤線を引かせどの児童も内容が正確に読み取れるようにする。 ・板書には線を引くだけでなく、必要に応じて心情も書き込んでいく。 順序を表す言葉や場面の様子に着目して読み取らせるようにする。
ふかめる	<ul style="list-style-type: none"> 考えをどのように比べるのか、観点や手順を具体的に示す。 他人と考えが違っていても良いことを児童に伝える。 ・考えの違いを児童だけで見つけられない場合には、教師も話し合いに加わり助言する。 ・児童の考えが類似している場合には、根拠となる言葉も同じなのか、ほかには、この考えの根拠になっている言葉はないのか、考えさせる。 	<ul style="list-style-type: none"> ・ノートの記述を基に考えを比べ合う。 	<ul style="list-style-type: none"> 5. 考えを比べる ・友達と考えを交流し、共通点や相違点を明らかにする 自分の考えと友達の考えを比べて、同じところ、違うところを見つけ、そう考えた理由を話し合おう。 	<ul style="list-style-type: none"> 5. 課題に対する自分の考えをもつ ・読み取りやこれまでの学習を振り返り、平和に暮らすゆみ子がどんな子に育ったのか考え、ノートに書き込むことで自分の考えをはっきり形に表す。 	<ul style="list-style-type: none"> ・手順にしたがって、自分の考えをノートに書く。 	<ul style="list-style-type: none"> ・間接指導に入る前に児童だけで学習を進められるように考えをもつための手順を示す。 自分の考えの根拠を明確にできるようにキーワードと結び付けさせるようにする。
	<ul style="list-style-type: none"> ・考えを広げ深めることができるように、考えを見直すための観点を示す。 ・最後に課題に対する考えを感想もまじえて書かせる。その際、今日の学習を振り返るとともに友達の考えを聞いて、自分の考えに取り入れたいと思ったことや学習をとおして、さらに考えたことなどを加えて、学習のまとめをさせる。 	<ul style="list-style-type: none"> ・ノートに見直した考えを記述する。 	<ul style="list-style-type: none"> 6. 考えを見直す ・学習を振り返り、学んだ読み方をまとめる。 	<ul style="list-style-type: none"> 6. 考えを比べる ・友達と考えを交流し、共通点や相違点を明らかにする 自分の考えと友達の考えを比べて、同じところ、違うところを見つけ、そう考えた理由を話し合おう。 	<ul style="list-style-type: none"> ・ノートの記述を基に考えを比べ合う。 	<ul style="list-style-type: none"> ・間接指導に入る前に児童だけで学習を進められるように考えをもつための手順を示す。 自分の考えの根拠を明確にできるようにキーワードと結び付けさせるようにする。 ・児童の考えに共通点がある場合には、なぜ同じになったのか他には、この考えの根拠となる言葉がないのかなどを考えさせる。 ・相違点については、違いの理由が何に基づいているのか、根拠になる言葉や文から気付かせる。